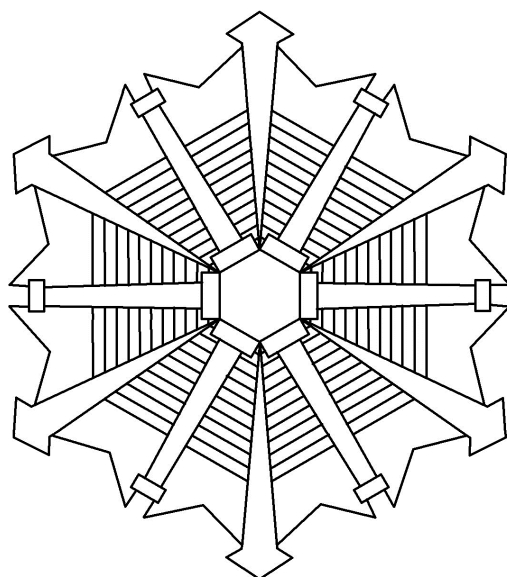


# 消防現況

平成 29 年版



久万高原町消防本部



# = 目 次 =

◇ 火災編	.....	1
◇ 救急編	.....	9
◇ 救助編	.....	29
◇ 予防編	.....	33



# 火 災 編



無防備な 心に火災が かくれんぼ

# 久万高原町内の火災の実態

## 1. 火災の状況

(1) 地区別火災発生状況…久万地区を除く3地区で火災が発生

第1表 地区別火災発生状況

区分	単位	久万高原町								合計	
		久万地区		面河地区		美川地区		柳谷地区		平成28年	平成29年
		平成28年	平成29年	平成28年	平成29年	平成28年	平成29年	平成28年	平成29年		
出火件数		2	-	1	2	3	2	2	1	8	5
建物	件	1	-	1	1	3	2	2	1	7	4
林野		1	-	-	1	-	-	-	-	1	1
車両		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
損害額		93	-	6,610	3,522	4,659	1,396	6,423	5,459	17,785	10,377
建物	千円	93	-	6,610	3,521	4,659	1,396	6,410	5,459	17,772	10,376
林野		-	-	-	1	-	-	13	-	13	1
車両		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
焼損棟数	棟	1	-	7	5	5	6	11	2	24	13
り災世帯数	世帯	1	-	2	1	2	2	3	-	8	3
り災人員	人	1	-	2	3	3	4	4	-	10	7
死者	人	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
負傷者		-	-	1	-	-	-	1	-	2	-
出火率	件	-	-	-	-	-	-	-	-	8.9	5.8

(注) 出火率を求めた人口は、平成29年4月1日現在の住民基本台帳による。

※久万高原町人口：8,671人

※出火率・・・人口1万人あたりの火災件数の割合

## (2) 出火率…久万高原町の出火率 5.8

消防白書の出火率を都道府県別にみると、愛媛県は2.7となっており、最も高いのは山梨県の3.9、一方、最も低いのは、富山県の1.8で、全国平均は2.8となっている。

(3) 四季別の火災発生状況…冬季に3件発生

第2表 四季別火災発生状況

(各年中)

年 別 季 別	平成 28 年			平成 29 年		
	出火件数 (件)	構成比 (%)	損害額 (千円)	出火件数 (件)	構成比 (%)	損害額 (千円)
春季(3月～5月)	5	62.5	8,593	2	40.0	3,522
夏季(6月～8月)	1	12.5	0	0	0	0
秋季(9月～11月)	0	0	0	0	0	0
冬季(12月～2月)	2	25.0	9,192	3	60.0	6,855
合 計	8	100.0	17,785	5	100.0	10,377

(4) 建物焼損面積…焼損床面積は昨年より減少

第3表 焼損床面積・表面積

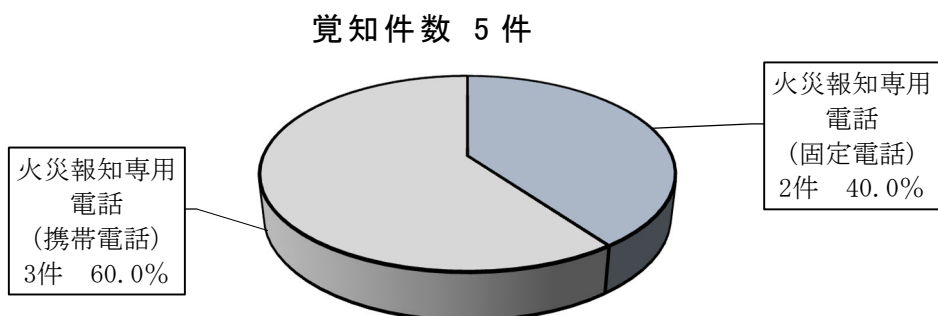
(平成29年中)

月 日	地 区	出火元の用途	焼損棟数	焼損程度	焼損床面積	焼損表面積
1月 15日	美川	住宅	1棟	全焼	45 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>
2月 13日	柳谷	住宅・店舗	2棟	全焼	269 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>
5月 7日	面河	住宅	5棟	全焼	294 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>
12月 2日	美川	倉庫	5棟	全焼	97 m <sup>2</sup>	11 m <sup>2</sup>

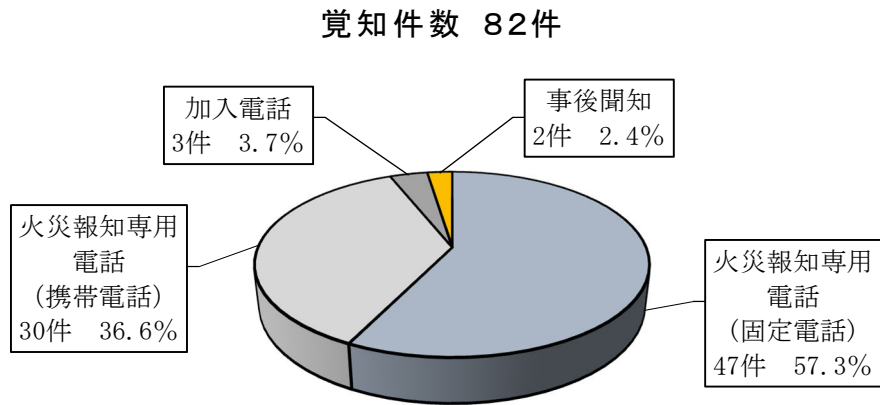
(5) 覚知と通報…火災報知専用電話(携帯)による通報60.0%

第1図 覚知方法別出火件数

(平成29年中)



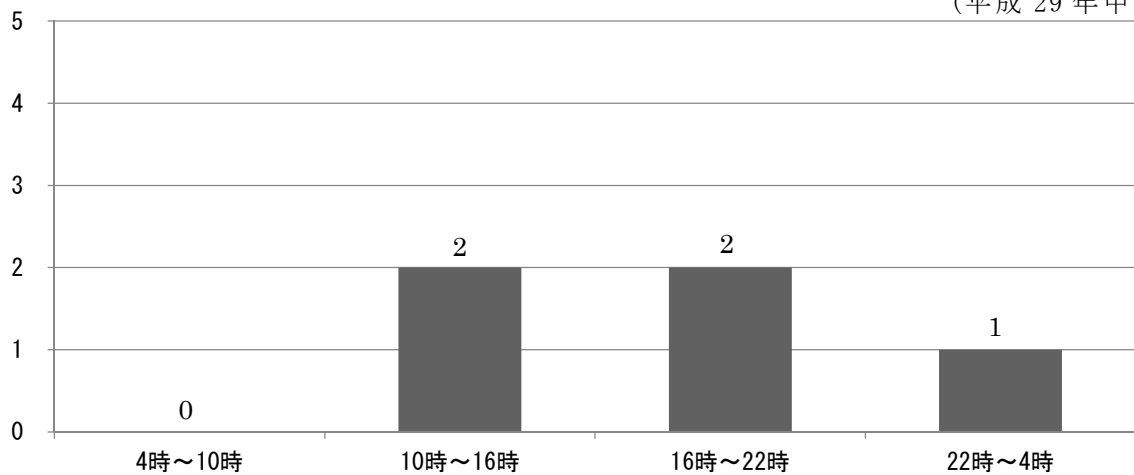
(平成 17 年～平成 29 年)



### (6) 時間帯別の火災発生状況…約半数が昼間に発生

第 2 図 時間帯別火災発生状況

(平成 29 年中)



## 2. 損害額…損害額は増加

消防白書によると全国の火災による損害額は 752 億円で、火災 1 件当たりでは 204 万円となっている。なお、火災種別ごとの損害額は建物火災によるものが圧倒的多く全体の 91.8%を占めている。

## 3. 火災による死傷者の状況…死者 1 人発生

火災による死者・負傷者をみると、逃げ遅れによる死者が 1 名発生している。管内での火災による死者は平成 26 年以来となっている。

## 4. 出火原因…大半は火気取扱い不注意

第4表 火災別発火源・経過・着火物

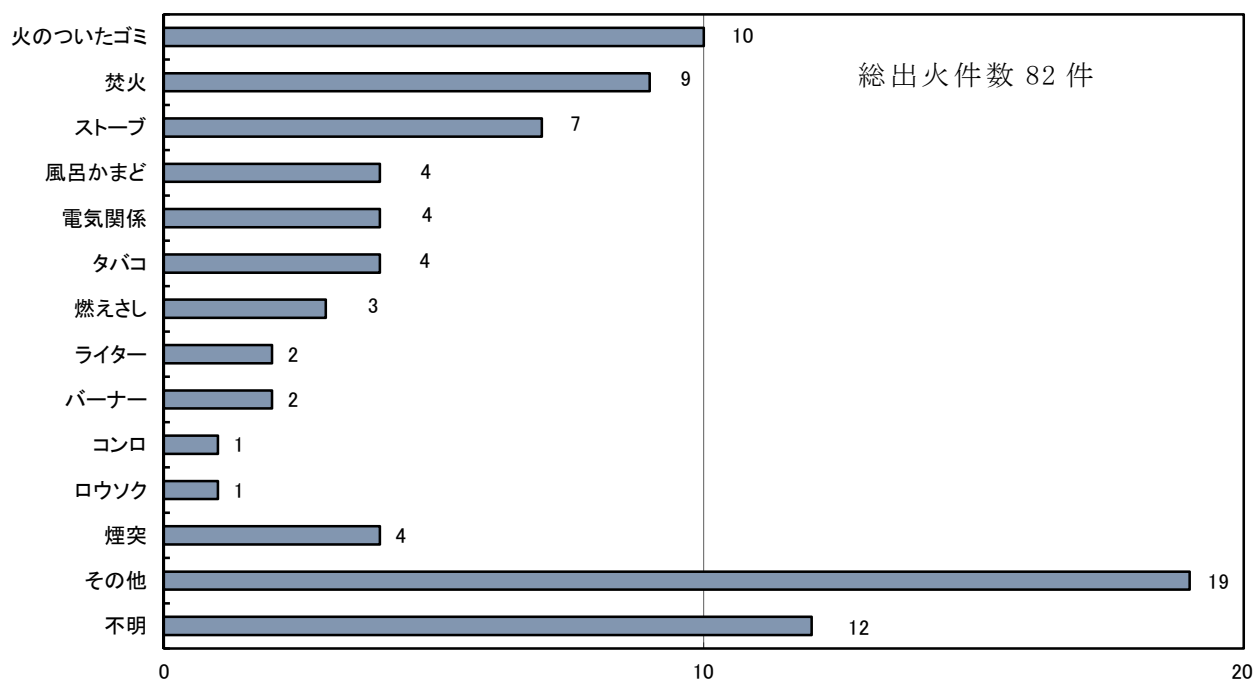
(平成29年中)

火災種別	月日	発火源	経過	着火物
建物	1月15日	煙草	火源が落下	紙屑
建物	2月13日	不明	不明	不明
建物	5月7日	火のついた紙	火源が動いて接触する	不明
林野	5月21日	枯草焼き	飛び火	枯草
建物	12月2日	石油バーナー	その他	木質物

過去13年間(82件)についてみると、火のついたゴミによる出火が10件(12.2%)と最も多く、次いで焚火が9件(11.0%)、ストーブ7件(8.5%)の順となっている。(第3図参照)

第3図 出火原因別の火災件数

(平成17年～平成29年)



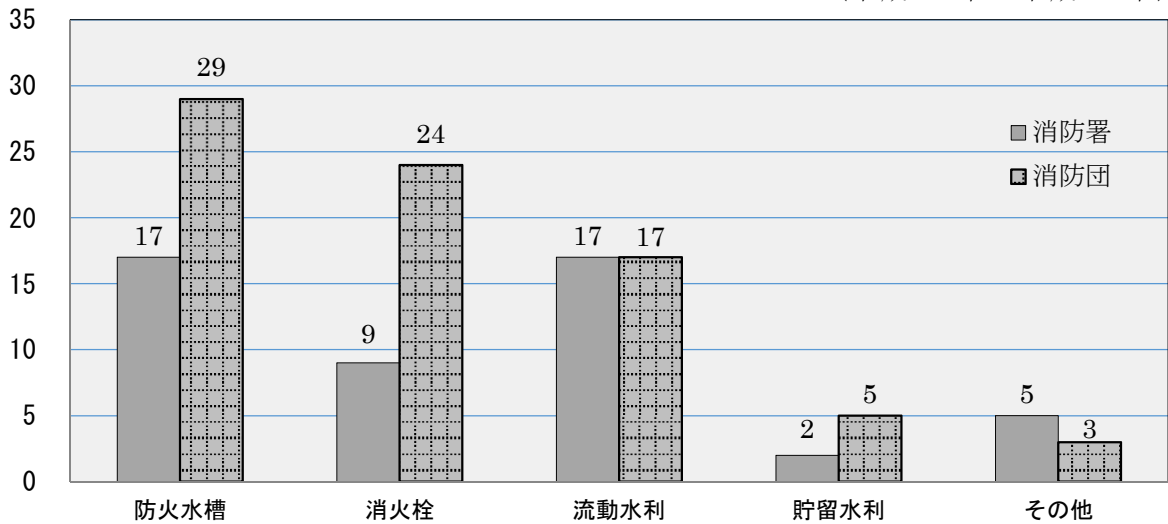
## 5. 初期消火…平成29年中の初期消火実施率40.0%

平成29年中における初期消火の実施状況をみると、5件中2件が初期消火を実施している。初期消火方法においては、水(水道水)、叩き消し、となっている。この内、水道水を使用した1件が消火に成功している。

## 6. 消防隊の使用水利…使用回数 1 位は防火水槽・流動水利

第 4 図 過去 13 年間の使用水利

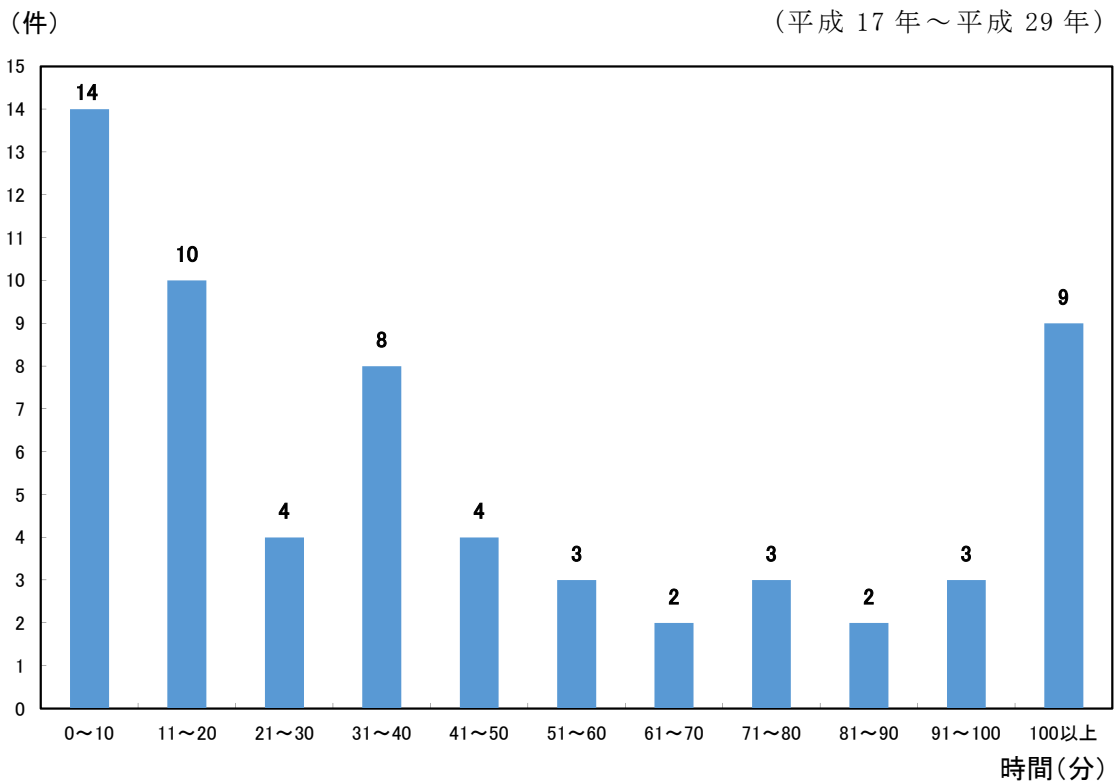
(平成 17 年～平成 29 年)



## 7. 放水時間…火災現場での放水時間平均 54.6 分

第 5 図 過去 13 年間の放水時間

(平成 17 年～平成 29 年)





平成29年 火災一覽表

火災番号	出火月日	火災種別	出火場所	出火時刻	覚知時刻	鎮火時刻	天候	風速	湿度	火元用途	構造燃焼物	焼損棟数			り災		死傷者		焼損面積			損害額 (千円)	出火原因	
												全焼	半焼	部分焼	ぼや	世帯	人員	死者	負傷者	床面積 (㎡)	表面積 (㎡)			林野 (a)
1	1/15	建物	久万高原町七鳥	18:00	18:05	18:50	雪	1.1	89	住宅	木造	1			1	3			45			721	啞え煙草の火種が足元に置いてあった可燃物の上に落下、さらに頭上に干してあった洗濯物を介し次々に延焼拡大	
2	2/13	建物	久万高原町西谷	3:00	3:37	5:30	晴れ	0	90	住宅・店舗	準耐火構造	2							269			5,459	不明	
3	5/7	建物	久万高原町前組	18:35	18:50	21:30	晴れ	3.4	63	住宅	木造	5			1	3	1		294			3,521	樽型循環式風呂釜内の火のついた紙が突風に煽られ飛散し可燃物に着火し延焼拡大したものの	
4	5/21	林野	久万高原町笠方	13:40	13:51	14:40	晴れ	3.0	31	人工林	—										1	1	枯草に点火棒で火をつけたところ、その周囲の枯草に飛び火し、延焼したもの	
5	12/2	建物	久万高原町日野浦	15:00	15:35	17:00	晴れ	2.6	65	倉庫	木造	2	3		1	1			97	11		675	多目的ガスバーナーで雑草の焼却を行っていた火が木材に着火したもの	
合 計												10	0	3	0	3	7	1	0	705	11	1	10,377	

※焼損程度解説

- ・全焼  
建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の70パーセント以上のもの又はこれ未満であっても残存部分に補修を加えて再使用できないものをいう。
- ・半焼  
建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の20パーセント以上のもので全焼に該当しないものをいう。
- ・部分焼  
建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の20パーセント未満のものでぼやに該当しないものをいう。
- ・ぼや  
建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の10パーセント未満であり焼損床面積が1平方メートル未満のもの、建物の焼き損害額が火災前の評価額の10パーセント未満であり焼損面積が1平方メートル未満のもの、又は収容物のみ焼損したものをいう。

地区別 火災統計

(平成17年～平成29年)

経年	町村別	久万地区			面河地区			美川地区			柳谷地区			久万高原町合計													
		建	林	計	建	林	計	建	林	計	建	林	計	建	林	計											
28	17年	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	4										
29	18年	3	-	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-	5	-	1	6										
30	19年	2	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	3	-	-	3										
31	20年	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5										
32	21年	1	-	1	-	-	-	1	1	-	2	-	-	2	1	1	4										
33	22年	3	1	-	-	-	-	1	2	1	-	-	-	6	2	-	8										
34	23年	1	2	1	-	-	-	2	-	-	2	-	-	4	2	1	7										
35	24年	3	-	-	-	-	-	2	-	-	1	3	-	5	-	-	6										
36	25年	4	1	1	1	7	-	-	1	-	1	1	1	6	2	1	10										
37	26年	2	2	-	1	5	-	-	2	1	-	3	-	4	3	-	8										
38	27年	3	1	1	1	6	-	-	1	-	-	1	-	4	1	2	8										
39	28年	1	1	-	-	2	1	-	3	-	-	3	2	7	1	-	8										
40	29年	-	-	-	-	-	1	1	2	-	-	2	1	4	1	-	5										
合計		28	10	5	3	46	3	1	1	1	-	5	18	3	-	1	22	8	1	-	-	9	57	15	6	4	82

地区別火災発生一覽表

(平成17年～平成29年)

区分 地区	出火件数				焼損面積			焼損棟数	り災		死傷者		損害額 千円
	統計	建物	林野	他	床面積(m <sup>2</sup> )	表面積(m <sup>2</sup> )	林野(a)		世帯	人員	死者	傷者	
<b>久万地区</b>	<b>46</b>	<b>28</b>	<b>10</b>	<b>8</b>	<b>1,347</b>	<b>194</b>	<b>91</b>	<b>35</b>	<b>14</b>	<b>25</b>	-	<b>1</b>	<b>41,356</b>
東明神	3	2	-	1	50	-	12	2	-	-	-	-	650
西明神	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
入野	4	3	-	1	199	-	8	3	2	2	-	-	2,878
久万	7	7	-	-	243	7	-	8	8	13	-	-	5,761
野尻	6	4	-	2	1	101	-	4	-	-	-	-	3,418
菅生	6	3	2	1	165	34	33	5	1	3	-	-	10,089
上畑野川	4	1	3	-	112	-	12	1	-	-	-	-	1,382
下畑野川	2	-	1	1	-	-	17	-	-	-	-	-	269
直瀬	5	2	2	1	47	10	3	3	-	-	-	1	833
父野川	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
露峰	4	2	1	1	164	-	-	2	1	4	-	-	7,127
二名	5	4	1	-	366	42	6	7	2	3	-	-	8,949
<b>面河地区</b>	<b>5</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>722</b>	<b>128</b>	<b>1</b>	<b>14</b>	<b>4</b>	<b>8</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>12,936</b>
相の木	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	803
笠方	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
前組	1	1	-	-	294	-	-	5	1	3	1	-	3,521
洪草・大成	2	2	-	-	428	128	-	9	3	5	-	1	8,611
中組・本組	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
若山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>美川地区</b>	<b>22</b>	<b>18</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>1,535</b>	<b>97</b>	<b>194</b>	<b>36</b>	<b>13</b>	<b>29</b>	<b>1</b>	-	<b>36,027</b>
有枝	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大川	2	2	-	-	145	32	-	3	1	3	-	-	1,991
上黒岩	3	2	1	-	4	-	-	2	-	-	-	-	439
中黒岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沢渡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日野浦	5	4	1	-	359	11	8	9	3	5	1	-	9,280
仕出	1	1	-	-	30	17	-	3	-	-	-	-	652
七鳥	5	4	-	1	228	23	-	5	3	9	-	-	5,542
東川	4	4	-	-	510	14	-	10	5	10	-	-	13,151
黒藤川	2	1	1	-	259	-	186	4	1	2	-	-	4,972
<b>柳谷地区</b>	<b>9</b>	<b>8</b>	<b>1</b>	-	<b>1,144</b>	<b>94</b>	<b>10</b>	<b>23</b>	<b>6</b>	<b>11</b>	-	<b>1</b>	<b>19,046</b>
柳井川	4	3	1	-	274	53	4	6	2	4	-	1	5,348
西谷	4	4	-	-	783	41	6	14	4	7	-	-	12,845
中津	1	1	-	-	87	-	-	3	-	-	-	-	853
<b>久万高原町</b>	<b>82</b>	<b>57</b>	<b>15</b>	<b>10</b>	<b>4,748</b>	<b>513</b>	<b>296</b>	<b>108</b>	<b>37</b>	<b>73</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>109,365</b>

# 救 急 編



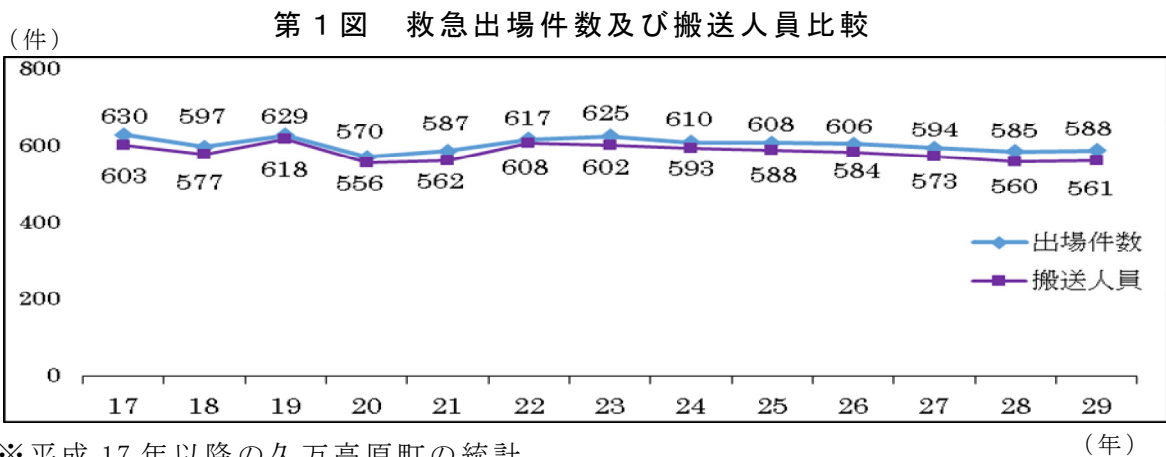
一人でも多くの人を救いたい

# 救急業務の実施状況

## 1. 救急出場件数および搬送人員…町民 15 人に 1 人を搬送

平成 29 年中における久万高原町の救急業務実施状況は、救急出場件数 588 件で前年比 3 件（0.5%）の増加、搬送人員は 561 人で前年比 1 人（0.2%）の増加となっており、不搬送件数は 32 件で前年比 2 件の増加となっている。

また、救急自動車の 1 日平均出場件数は 1.61 件（前年 1.60 件）となっており、町民（平成 29 年 4 月 1 日現在の人口 8,671 人）15 人（前年 16 人）に 1 人が救急隊によって搬送されたこととなる。（第 1 図参照）



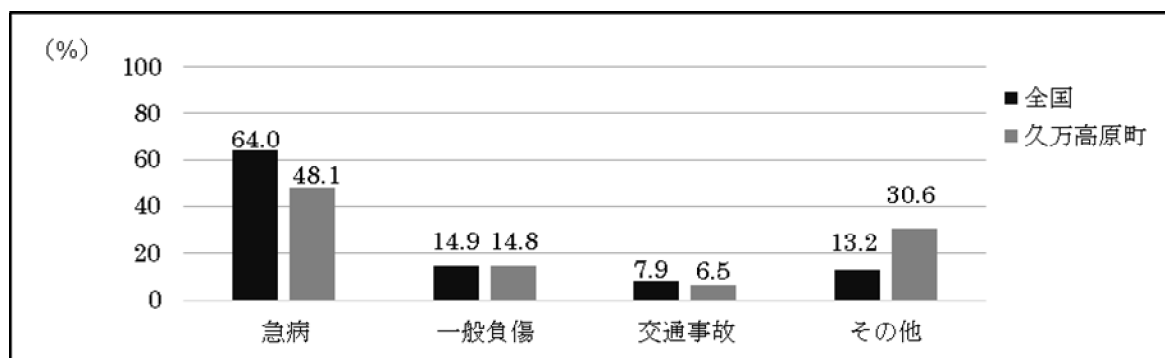
※平成 17 年以降の久万高原町の統計

## 2. 事故種別救急出場件数および搬送人員

第 1 表 年別救急活動の推移

	救急出場件数		搬送人員		事故種別発生件数				
	件数	対前年増減率	人員	対前年増減率	急病	交通	一般負傷	転院	その他
17	630	▲17.2	603	▲16.1	262	52	94	201	21
18	597	▲5.2	577	▲4.3	251	28	83	218	17
19	629	5.3	618	7.1	266	45	81	214	23
20	570	▲9.4	556	▲10.0	262	41	81	166	20
21	587	2.9	562	1.1	287	29	81	170	20
22	617	5.1	608	8.2	273	31	99	196	18
23	625	1.3	602	▲1.0	278	27	96	202	22
24	610	▲2.4	593	▲1.5	282	26	86	193	23
25	608	▲0.3	588	▲0.9	280	27	86	195	20
26	606	▲0.2	584	▲0.7	247	44	101	194	20
27	594	▲2.1	573	▲1.9	283	36	89	164	22
28	585	▲1.5	560	▲2.3	294	33	82	165	11
29	588	0.5	561	0.2	283	38	87	153	27
累計	7,846	—	7,585	—	3,548	457	1,146	2,431	264

第2図 事故種別救急出場件数



第2表 事故種別救急出場件数および搬送人員

事故種別	平成29年中		平成28年中		対前年比	
	出場件数 搬送人員	構成比	出場件数 搬送人員	構成比	増減数	増減率
急病	283	48.1%	294	50.3%	▲ 11	▲ 3.7%
	265	47.2%	276	49.3%	▲ 11	▲ 4.0%
一般負傷	87	14.8%	82	14.0%	5	6.1%
	83	14.9%	77	13.8%	6	7.8%
交通事故	38	6.5%	33	5.6%	5	15.2%
	40	7.1%	34	6.1%	6	17.6%
労働災害	5	0.9%	2	0.3%	3	150.0%
	4	0.7%	2	0.4%	2	100.0%
自損行為	7	1.2%	4	0.7%	3	75.0%
	4	0.7%	3	0.5%	1	33.3%
火災						
加害	3	0.5%			3	
	3	0.5%			3	
運動競技	6	1.0%	4	0.7%	2	50.0%
	6	1.1%	4	0.7%	2	50.0%
水難						
自然災害						
転院	153	26.0%	165	28.2%	▲ 12	▲ 7.3%
	153	27.3%	164	29.2%	▲ 11	▲ 6.7%
その他	6	1.0%	1	0.2%	5	500.0%
	3	0.5%	0		3	
合計	588	100.0%	585	100.0%	3	0.0%
	561	100.0%	560	100.0%	1	0.0%

搬送人員 561 人のうち、高齢者が 405 人（72.2%）を占めている。また、事故種別では約 5 割（47.2%）が急病となっている。（第 3 表参照）

第 3 表 年齢区分別事故種別搬送人員の状況

(561 人)

事故種別 年齢区分	急病	交通事故	一般負傷	転院	その他	計
新生児						0 0.0%
乳幼児	7 2.6%		4 4.8%	3 2.0%		14 2.5%
少年	9 3.4%	3 7.5%	3 3.6%	1 0.6%	2 10.0%	18 3.2%
成人	40 15.1%	24 60.0%	20 24.1%	26 17.0%	14 70.0%	124 22.1%
高齢者	209 78.9%	13 32.5%	56 67.5%	123 80.4%	4 20.0%	405 72.2%
計	265 47.2%	40 7.1%	83 14.8%	153 27.3%	20 3.6%	561 100%

最少出場件数の 1 月（32 件）を指数 1 とした場合、8 月（62 件）が 1.9 で最多となる。事故種別でみると、急病は 8 月（33 件 11.7%）、一般負傷は 7 月（17 件 19.5%）、交通事故は 5 月（9 件 23.7%）に多く発生している。（第 4 表参照）

第 4 表 月別・事故種別救急出場件数

(588 件)

月別 種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
急病	20	23	18	31	25	18	23	33	22	27	24	19	283
一般	3	10	7	7	3	6	17	12	5	8	4	5	87
交通	1	2	1	3	9	5	3	3	1	2	4	4	38
その他	0	0	2	3	4	1	2	4	0	7	2	2	27
転院	8	22	14	10	19	11	11	10	9	17	16	6	153
計	32	57	42	54	60	41	56	62	37	61	50	36	588

一日の出場件数が 4 件以上となった日は 39 日、一日の最多出場件数は 7 件、また救急出場のなかった日は 86 日となっている。

曜日別では、日曜日の 77 件が最少出場件数で、これを指数 1 とした場合、最多出場件数は月曜日の 96 件で 1.25 となっている。（第 5 表参照）

第 5 表 曜日別救急出場件数

(588 件)

曜日 件数指数	月	火	水	木	金	土	日	合計
出 場 件 数	96	88	82	83	82	80	77	588
最低を 1 とした指数	1.25	1.14	1.06	1.08	1.06	1.04	1.00	7.63
合計の平均を 1 とした指数	1.13	1.05	0.98	0.99	0.98	0.95	0.92	7.00

出場時間帯別に救急出場をみると、ピークは 10 時～12 時の 96 件（16.3%）であり、深夜・早朝にあたる 22 時～6 時の 8 時間では 76 件（12.9%）の出場となっている。（第 6 表参照）

第 6 表 時間帯別・事故種別出場件数

(588 件)

種別 時間	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他		計
											転院	その他	
0～2							2	2	1	16	1		22
2～4								1		7	2		10
4～6				1			3			8			12
6～8				2			6		1	21	4		34
8～10				4			12		1	46	25	2	90
10～12				7	2	2	14			30	41		96
12～14				5		2	13			27	20		67
14～16				4	3	2	13		2	26	17	3	70
16～18				10			9		1	33	19	1	73
18～20				3			4			29	6		42
20～22				1			7			22	10		40
22～24				1			4		1	18	8		32
計	0	0	0	38	5	6	87	3	7	283	153	6	588

事故種別ごとの町外居住者の搬送をみると、一般負傷（20 人 24.1%）が多い。また、傷病者の事故発生場所別をみると、急病 214 人（80.8%）、一般負傷 44 人（53.0%）では住宅内での発生が多くなっている。また、一般負傷のうち、その他の場所 23 人（27.7%）は、スキー場・ゴルフ場・農地・河原・山林等において発生したものである。（第 7 表・第 8 表参照）



第 7 表 町内・町外別搬送人員の状況

(561 人)

住居区分 \ 事故種別	急病	交通事故	一般負傷	転院	その他	計
町内居住者	248	24	63	146	7	488
	93.6%	60.0%	75.9%	95.4%	35.0%	87.0%
町外居住者	17	16	20	7	13	73
	6.4%	40.0%	24.1%	4.6%	65.0%	13.0%
計	265	40	83	153	20	561
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

第 8 表 発生場所別搬送人員

(561 人)

発生場所 \ 事故種別	住宅	公衆出入場所	仕事場	道路	その他	病院(転院)	計
急病	214	24	6	9	12		265
	80.8%	9.0%	2.3%	3.4%	4.5%		100.0%
交通事故	1	1		38			40
	2.5%	2.5%		95.0%			100.0%
一般負傷	44	11		5	23		83
	53.0%	13.3%		6.0%	27.7%		100.0%
その他	1	10	2	3	4	153	173
	0.6%	5.8%	1.2%	1.7%	2.3%	88.4%	100.0%
計	260	46	8	55	39	153	561
	46.3%	8.2%	1.4%	9.8%	7.0%	27.3%	100.0%

### 3. 医療機関別搬送人員の状況

医療機関に搬送された傷病者 561 人中、500 人 (89.1%) が救急告示医療機関へ、残り 61 人 (10.9%) が救急告示医療機関以外 (三次医療機関含む) へ搬送されている。町内に收容された 341 人 (60.8%) の医療機関別の状況は、久万高原町立病院 300 人 (88.0%)、西本医院 24 人 (7.0%)、みかわクリニック 13 人 (3.8%)、となっている。町外医療機関に收容された 220 人 (39.2%) のうち、転院搬送人員は 148 人で町外搬送人員の約 70%を占めている。また、主な転院先医療機関は、県立中央病院 51 人、松山赤十字病院 38 人、救命救急センター 21 人となっている。(第 9 表、第 3 図、第 4 図、第 10 表参照)

第9表 医療機関別搬送人員の状況

(561人)

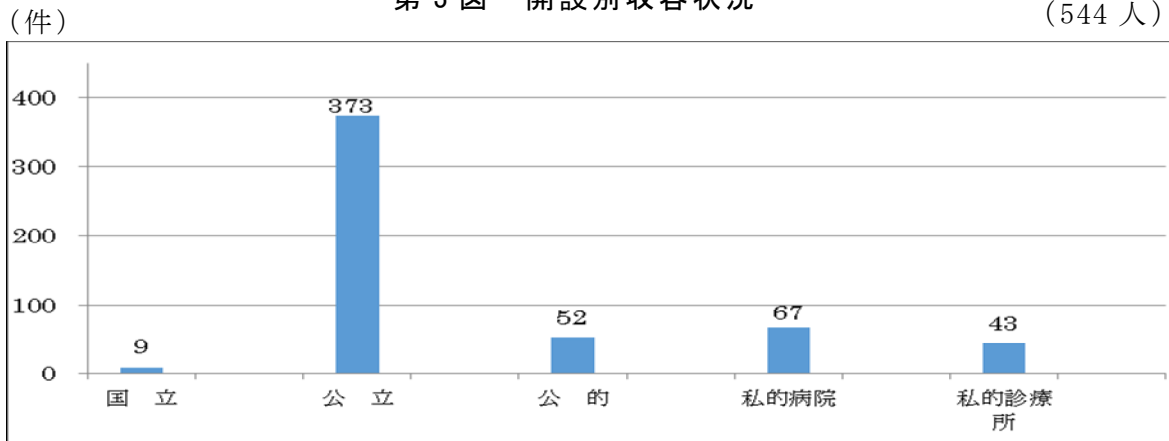
開設区分 告示区分	医療機関						その他の場所		計
	国立	公立	公的	私的病院	私的診療所	計	ドクターヘリ 消防中継 ヘリ中継	警察等	
救急告示	9	352	52	63	24	500			500
	(9)	(52)	(52)	(63)		(176)			(176)
非告示		21		4	19	44	17		61
		(21)		(4)	(2)	(27)			(27)
計	9	373	52	67	43	544			561
	(9)	(73)	(52)	(67)	(2)	(203)			(203)

注1. ( ) は町外の医療機関に搬送された人員である

2. 一つの搬送事例につき、傷病者を二つ以上の医療機関へ転送した場合は、  
収容された最終の医療機関について記載した

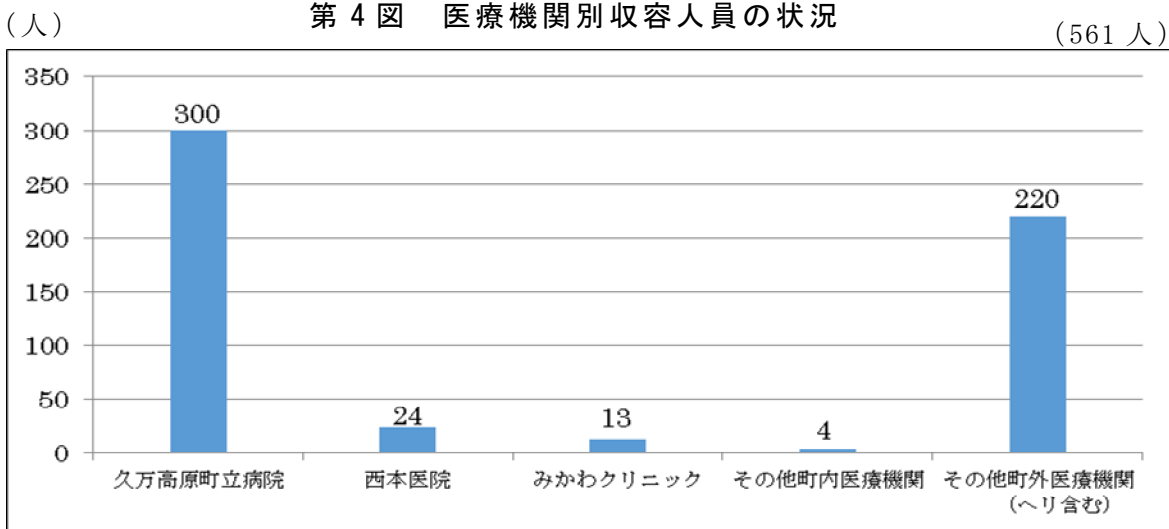
第3図 開設別収容状況

(544人)



第4図 医療機関別収容人員の状況

(561人)



第 10 表 医療機関別搬送人員一覧表

(561 人)

町内医療機関	医療機関名		開設	人員	内転院	
	告示	久万高原町立病院		公立	300	5
社団マリナ会西本医院		私的	24			
非告示	みかわクリニック		私的	13		
	その他医療機関		私的	4		
合計				341	5	
町外医療機関	救急告示	愛媛大学医学部附属病院		国立	2	1
		国立病院機構愛媛医療センター		国立	7	6
		愛媛県立中央病院		公立	51	39
		松山赤十字病院		公的	38	28
		済生会松山病院		公的	14	12
		松山市民病院		私的	18	12
		南松山病院		私的	11	7
		愛媛生協病院		私的	8	3
		平成脳神経外科病院		私的	6	3
		奥島病院		私的	8	5
		野本記念病院		私的	5	3
		渡辺病院		私的	1	1
		梶浦病院		私的	4	4
		浦屋病院		私的	1	1
		松山城東病院		私的	1	1
		檮原病院（高知県）		公立	1	
合計				176	126	
非告示	救命救急センター		公立	21	16	
	貞本病院		私的	3	3	
	その他県内		私的	3	1	
合計				27	20	
特殊	ドクターヘリ			16	2	
	他消防機関(消防防災ヘリ)へ中継			1		
	久万高原警察署・その他					
総計				561	153	

#### 4. 傷病程度別搬送人員の状況…高齢者の重症以上率が 20.0%

事故種別ごとに死亡と重症傷病者の合計割合をみると、全国では急病が 9.4% となっているが、久万高原町では 16.9%と高くなっている。

また、軽症率は全国で 49.2%となっているが、久万高原町では 29.4%と適正な利用となっている。(第 11 表参照)

第 11 表 事故種別傷病程度の状況

	久万高原町 平成29年中						(参考) 全国統計 平成28年中					
	死亡	重症	中等症	軽症	その他	計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	計
急病	13	33	93	80	46	265	60,634	277,334	1,508,146	1,760,470	1,358	3,607,942
	4.9%	12.5%	35.1%	30.2%	22.2%	100.0%	1.7%	7.7%	41.8%	48.8%	0.0%	100.0%
交通事故		6	8	24	2	40	2,136	18,414	91,249	364,588	302	476,689
		15.0%	20.0%	60.0%	5.0%	100.0%	0.4%	3.9%	19.1%	76.5%	0.1%	100.0%
一般負傷	1	7	28	41	6	83	5,591	55,158	282,462	504,225	435	847,871
	1.2%	8.4%	33.8%	49.4%	7.2%	100.0%	0.6%	6.5%	33.3%	59.5%	0.1%	100.0%
その他	1	34	77	20	41	173	7,618	119,251	420,692	139,918	1,237	688,716
	0.6%	19.6%	44.5%	11.6%	23.7%	100.0%	1.1%	17.3%	61.1%	20.3%	0.2%	100.0%
計	15	80	206	165	95	561	75,979	470,157	2,302,549	2,769,201	3,332	5,621,218
	2.7%	14.3%	36.7%	29.4%	16.9%	100.0%	1.4%	8.3%	41.0%	49.2%	0.1%	100.0%

搬送人員 561 人を年齢区分別でみると、高齢者 405 人（72.2%）が約 7 割となっている。さらに、年齢区分別の傷病程度をみると、高齢者で中等症の割合が高くなっている。（第 12 表・第 13 表参照）

第 12 表 年齢区分別搬送人員の増減

区分	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	計
平成28年	0	13	10	131	406	560
平成29年	0	14	18	124	405	561
増減	0	1	8	▲ 7	▲ 1	1
増減率	0.0%	7.7%	80.0%	-5.3%	-0.2%	0.2%

第 13 表 年齢区分別傷病程度の状況

年齢区分 傷病程度	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	計
死亡					15	15
					3.7%	2.7%
重症			3	12	68	83
			16.7%	9.6%	16.8%	14.8%
中等症		5	2	25	174	206
		35.7%	11.1%	20.2%	42.9%	36.7%
軽症		5	13	62	85	165
		35.7%	72.2%	50.0%	21.0%	29.4%
その他		4		25	63	92
		28.6%		20.2%	15.6%	16.4%
計		14	18	124	405	561
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
比率		2.5%	3.2%	22.1%	72.2%	100.0%

第 14 表 不搬送（死亡分）の状況

種 別	急 病		交通事故		一般負傷		自 損		その他		計	
	9件	9人	1件	1人	2件	2人	3件	3人	1件	1人	16件	16人
死 亡	9件	9人	1件	1人	2件	2人	3件	3人	1件	1人	16件	16人

※不搬送件数は 32 件となっている

## 5. 急病に係る疾病分類別搬送人員の状況

疾病分類別傷病程度別にみると、死亡の 11 人が心疾患に因るものであり、年齢区分別傷病程度別にみると、年齢区分が高くなるにつれ中等症以上の比率が高くなり、高齢者の中等症以上率は 57.0%と成人の中等症以上率（32.5%）の約 1.8 倍の数値となっている。（第 15 表、第 16 表、第 17 表参照）

第 15 表 急病に係る疾病分類別年齢区分別搬送人員の状況

疾病分類		年齢区分					
		新生児	乳幼児	少 年	成 人	高齢者	計
循 環 系	脳疾患			1 3.0%	3 9.1%	29 87.9%	33 12.5%
	心疾患				5 16.1%	26 83.9%	31 11.7%
消 化 系				1 4.5%	2 9.1%	19 86.4%	22 8.3%
呼 吸 系				1 4.8%	3 14.3%	17 81.0%	21 7.9%
精 神 系			1 14.3%	1 14.3%	1 14.3%	4 57.1%	7 2.6%
感 覚 系				1 11.1%		8 88.9%	9 3.4%
泌 尿 系					2 22.2%	7 77.8%	9 3.4%
新 生 物						3 100.0%	3 1.1%
そ の 他 不 明 確			6 4.6%	4 3.1%	24 18.5%	96 73.8%	130 49.1%
計			7 2.6%	9 3.4%	40 15.1%	209 78.9%	265 100.0%

第 16 表 急病に係る疾病分類別傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度		死亡	重症	中等症	軽症	その他	計
疾病分類							
循環系	脳疾患	1	10	15	7		33
		3.0%	30.3%	45.5%	21.2%		12.5%
循環系	心疾患	11	7	6	7		31
		35.5%	22.6%	19.3%	22.6%		11.7%
消化系			3	13	6		22
			13.6%	59.1%	27.3%		8.3%
呼吸系		1	7	9	4		21
		4.8%	33.3%	42.9%	19.0%		7.9%
精神系				3	4		7
				42.9%	57.1%		2.6%
感覚系				3	6		9
				33.3%	66.7%		3.4%
泌尿系			2	4	3		9
			22.2%	44.5%	33.3%		3.4%
新生物			2	1			3
			66.7%	33.3%			1.1%
その他 不明確			2	39	43	46	130
			1.5%	30.0%	33.1%	35.4%	49.1%
計		13	33	93	80	46	265
		4.9%	12.4%	35.1%	30.2%	17.4%	100.0%

第 17 表 急病に係る年齢区分別傷病程度別搬送人員の状況

年齢区分		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	計
傷病程度							
死亡						13	13
						100.0%	4.9%
重症					4	29	33
					12.1%	87.9%	12.4%
中等症			3		9	81	93
			3.2%		9.7%	87.1%	35.1%
軽症			2	7	20	51	80
			2.5%	8.8%	25.0%	63.7%	30.2%
その他			2	2	7	35	46
			4.3%	4.3%	15.3%	76.1%	17.4%
計			7	9	40	209	265
			2.6%	3.4%	15.1%	78.9%	100.0%

## 6. 一般負傷における転倒事故の状況

一般負傷は 87 件発生し、83 人が搬送されている。その搬送者の中で転倒による搬送は 41 人（49.4%）で高齢者が 29 人（70.7%）、を占めている。また、発生場所で見ると、住宅が 22 件（53.7%）と過半数を占めており、時間帯では 7時から 17時と昼間の時間帯に約 7割の転倒事故が発生している。

## 7. 現場到着所要時間別出場件数の状況…平均 14.0 分（転院除く）

救急出場件数 588 件のうち、転院搬送 153 件、出場途上辞退 4 件を除く現場到着した 431 件について現場到着所要時間をみると、現場到着に 10 分以上要したものが 250 件（58.0%）を占める。また、現場到着平均所要時間は 14.0 分となり、昨年と比べ 1.0 分延長している。（前年 13.0 分）（第 18 表参照）

平成 28 年中の全国統計をみると、現場到着所要時間は平均 8.5 分（前年 8.6 分）となっている。

第 18 表 現場到着所要時間別・事故種別出場件数（途中帰署除く）

現場到着 所要時間 事故種別	3分未満	3分～ 5分未満	5分～ 10分未満	10分～ 20分未満	20分以上	計	現場到着 平均時間
急病	10	25	82	99	65	281	13.9
交通		3	15	16	4	38	11.5
一般負傷	2	5	24	36	19	86	15.3
その他	5	3	7	5	6	26	13.8
計	17	36	128	156	94	431	14.0
転院	12	56	72	11	2	153	5.3
総計	29	92	200	167	96	584	11.7

## 8. 収容所要時間別搬送人員の状況…平均 48.2 分（転院除く）

搬送人員 561 人のうち、転院搬送 153 人を除く病院収容した 408 人についての収容所要時間別（覚知～医療機関などに引き継ぐまでに要した時間）の状況は、30 分以上～60 分未満が最も多く 146 人（35.8%）であった

収容平均所要時間は 50.1 分で昨年と比べ 0.5 分延長している。（前年 49.6 分）また、転院に係る収容平均所要時間は 55.2 分となっている。（前年 51.5 分）このように長時間の救急活動となる場合が多く、全体で 30 分以上の収容所要時間を要したものは 427 人（76.1%）となっている。（第 19 表参照）

平成 28 年中の全国統計をみると、収容所要時間は平均 39.3 分（前年 39.4 分）となっている。

第 19 表 収容所要時間別・事故種別搬送人員の状況

収容所要 時間 事故種別	10分 未満	10分～ 20分未満	20分～ 30分未満	30分～ 60分未満	60分～ 120分未満	120分 以上	計	収容平均 所要時間
急病	1	34	43	101	81	5	265	48.0
交通		3	11	16	9	1	40	51.3
一般負傷		10	18	23	28	4	83	53.3
その他	2	2	7	6	3		20	22.1
計	3	49	79	146	121	10	408	48.2
転院		3		122	28		153	55.2
総計	3	52	79	268	149	10	561	50.1

## 9. 救急出場時間の状況（覚知から帰署まで）・・・平均 1 時間 36 分

救急覚知から帰署時間までの全平均時間は 1 時間 36 分(対前年比 3 分延長)。

また、出場時間を町内町外別に見ると、町内に出場・搬送の平均時間は 1 時間 14 分（対前年比 4 分延長）。町外に出場・搬送の平均時間は 2 時間 4 分（対前年比 1 分短縮）となった。（第 20 表参照）

第 20 表 救急出場時間の状況

	平成 29 年		平成 28 年	
総出場件数	588 件		585 件	
出場件数	町内	町外	町内	町外
	333 件	255 件	338 件	247 件
総出場時間	937 時間 59 分		913 時間 17 分	
出場時間	411 時間 40 分	526 時間 19 分	396 時間 41 分	516 時間 36 分
平均時間	1 時間 14 分	2 時間 4 分	1 時間 10 分	2 時間 5 分
全平均時間	1 時間 36 分		1 時間 33 分	



第 21 表 救急隊員の行った応急処置状況

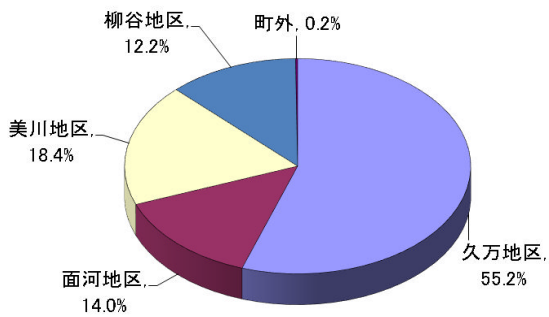
事 故 種 別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
応急処置対象人員	265	40	83	173	561
止 血	3	3	13	3	22
固 定	2	19	24	17	62
人 工 呼 吸	3			1	4
酸 素 吸 入	78	5	6	42	131
保 温	47		11	23	81
被 覆	2	8	22	9	41
胸 骨 圧 迫				1	1
心 肺 蘇 生	10		1	1	12
* うち自動式心マッサージ器	3		1		4
* 在宅療法継続	4			1	5
* ショックパンツ					0
* 血 圧 測 定	241	30	78	160	509
* 心音呼吸音聴取	24	4	6	3	37
* 血中酸素飽和度測定	250	33	79	166	528
* 心電図測定等	107	3	8	48	166
気 道 確 保	11		2	2	15
* うち経鼻エアウェイ					0
* うち喉頭鏡・鉗子等	2				2
◎* うちラリングアルマスク等	3		1		4
◎* うち気管挿管					0
* 除 細 動					0
◎* 静 脈 路 確 保 CPA前	1	1			2
◎* 静 脈 路 確 保 CPA後	1				1
◎* 薬 剤 投 与 アドレナリン					0
◎* 薬 剤 投 与 ブドウ糖					0
◎* 血 糖 測 定					0
そ の 他	244	23	63	138	468
合 計	1,036	129	315	615	2,095
* 拡大された応急処置等	636	71	173	378	1,258
◎うち特定5項目	5	1	1	0	7

第 22 表 地区別救急出場件数の増減

地区 件数	久万高原町					町外	計
	全 体	久万地区	面河地区	美川地区	柳谷地区		
平成29年	587	380	61	89	57	1	588
	99.8%	64.6%	10.4%	15.1%	9.7%	0.2%	100.0%
うち転院を除く	434	240	61	80	53	1	435
	99.8%	55.2%	14.0%	18.4%	12.2%	0.2%	100.0%
平成28年	579	396	41	95	47	6	585
増 減	8	▲ 16	20	▲ 6	10	▲ 5	3
増 減 率	1.4%	▲ 4.0%	48.8%	▲ 6.3%	21.3%	▲83.3%	0.5%

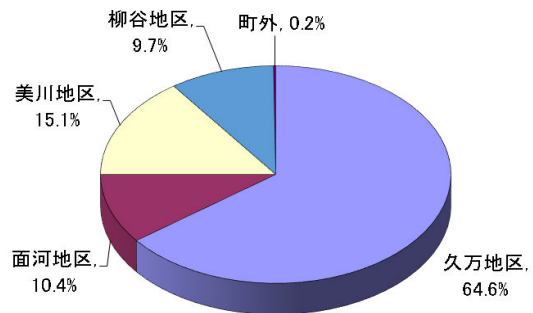
第 5 図 地区別救急出場件数

(588 件)



第 6 図 転院を除く地区別救急出場件数

(435 件)



第 23 表 ドクターヘリ運航状況

番号	月日	年齢	性別	種別	事故概要	程度	経由 消防	D r ヘリ	収容医療機関
1	2 /13	68	男	一般	足関節開放骨折	重症	東温	愛媛県	愛媛大学病院
2	2 /21	92	男	一般	大腿骨脛部骨折	重症	東温	愛媛県	愛媛医療センター
3	3 / 6	55	男	転院	脛骨腓骨開放骨折	重症		愛媛県	救命救急センター
4	3 /15	56	男	自損	両頸部切創	中等症		愛媛県	救命救急センター
5	4 /27	84	男	急病	急性冠症候群	重症		愛媛県	救命救急センター
6	4 /29	60	男	労災	DIP関節開放性脱臼骨折	中等症		愛媛県	救命救急センター
7	5 / 3	81	男	転院	急性冠症候群	重症		愛媛県	救命救急センター
8	5 / 7	65	男	急病	低血糖発作	中等症		愛媛県	救命救急センター
9	5 /14	84	女	急病	出血性脳梗塞	重症		愛媛県	救命救急センター
10	5 /19	27	女	交通	多発性外傷	重症		愛媛県	高知医療センター
11	5 /30	83	女	一般	熱中症	中等症		愛媛県	救命救急センター
12	6 / 3	77	男	自損	農薬中毒	重症		愛媛県	救命救急センター
13	7 /20	47	男	急病	心室細動	重症		愛媛県	救命救急センター
14	8 /20	85	男	一般	左前腕・左踵裂傷	中等症		愛媛県	久万高原町立病院
15	9 /21	80	男	一般	多発性外傷	重症	東温	愛媛県	愛媛大学病院
16	11/ 5	55	男	一般	左多発肋骨骨折	中等症		愛媛県	久万高原町立病院
17	11/13	66	男	急病	急性心不全	重症		愛媛県	救命救急センター
18	12/22	67	男	一般	環指末節骨開放骨折	中等症	東温	愛媛県	愛媛医療センター

※平成 29 年 2 月から運航開始

第 24 表 ドクターカー運行状況

番号	月日	年齢	性別	種別	事故概要	程度	収容医療機関
1	2/23	57	男	転院	急性呼吸不全	重症	救命救急センター
2	10/13	66	男	急病	急性冠症候群	中等症	救命救急センター
3	11/13	66	男	急病	急性心不全	重症	救命救急センター

第 25 表 上級救命講習修了者一覧

(平成 5 年からの累計)

区分	合計	官公庁	消防団	女性防火 クラブ	会社 事業所	学校	各種団体	
平成29年実施回数	0							
平成29年修了者数	0							
久万 高原 町	全体	565	36	394	56	15	20	44
	久万地区	285		192	35	15	9	34
	面河地区	103	5	75	18		3	2
	美川地区	115	31	75			5	4
	柳谷地区	62		52	3		3	4
総実施回数	51	3	28	5	1	6	8	
総修了者数	565	36	394	56	15	20	44	

第 26 表 普通救命講習 I 実施状況

(平成 29 年中)

番号	受講日	講習時間	受講団体名	受講者数	修了証 交付者数	派遣人員
1	3月 7日	3:00	道の駅 天空の郷 さんさん	11	11	1
2	4月 23日	3:00	久万小学校 教員	18	3	※1
3	5月 15日	3:00	久万中学校1年生	38	38	3
4	5月 16日	3:00	上浮穴高等学校	27	6	※4
5	5月 25日	3:00	町内教職員	31	8	※4
6	5月 26日	3:00	町内教職員	20	4	※3
7	5月 27日	3:00	町内教職員	10	1	※2
8	6月 6日	3:00	フォレストワーカー養成コース	48	48	3
9	6月 8日	3:00	美川中学校	61	21	※5
10	6月 13日	3:00	古岩屋荘	21	20	※3
11	6月 19日	3:00	愛媛県林業労働力確保支援センター	4	4	1
12	7月 25日	3:00	介護支援サービス しのもと	22	4	※4
13	7月 26日	3:00	介護支援サービス しのもと	22	1	※3
14	7月 27日	3:00	有限会社ナイスデイ アットホーム直瀬	25	7	※2
15	9月 1日	3:00	育和会 久万保育園	19	1	※3
16	9月 7日	3:00	特別養護老人ホーム 久万の里	13	13	2
17	9月 8日	3:00	育和会 久万保育園	15	0	※2
18	9月 14日	3:00	特別養護老人ホーム 久万の里	20	20	※2
19	11月 11日	3:00	防災士	10	7	※2
合計		57:00	14団体	435	217	50

※は新規講習と再講習の実施団体（再講習の人数は含まれていない）

第 27 表 普通救命講習修了者一覧

(平成 5 年からの累計)

区 分	合計	官公庁	消防団	女性防火 クラブ	会社事業 所	学校	各種団体	
平成29年実施回数	19	1			8	9	1	
平成29年修了者数	217	11			117	82	7	
久 万 高 原 町	久万地区	4,204	350	215	114	761	2,064	700
	面河地区	387		142	33	6	156	50
	美川地区	944	7	69	126	51	669	22
	柳谷地区	363	6	36		49	217	55
※総実施回数	411	30	25	38	71	192	55	
※総修了者数	5,898	363	462	273	867	3,106	827	

注 1. 平成 19 年から修了証番号を 1 号から交付する

第 28 表 救命講習修了者一覧

(平成 5 年からの累計)

	合計	官公庁	消防団	女性防火 クラブ	会社 事業所	学校	各種団体
修了者数	6,463	399	856	329	882	3,126	871

第 29 表 再講習実施状況

受講日	講習 時間	対象団体名	対象 人員	講習内容	派遣人員
1 4月 23日	3:00	久万小学校 教員	15	普通救命講習 I と再講習	※ 1
2 5月 16日	3:00	上浮穴高等学校	21	普通救命講習 I と再講習	※ 4
3 5月 25日	3:00	町内教職員	23	普通救命講習 I と再講習	※ 4
4 5月 26日	3:00	町内教職員	16	普通救命講習 I と再講習	※ 3
5 5月 27日	3:00	町内教職員	9	普通救命講習 I と再講習	※ 2
6 6月 8日	3:00	美川中学校	40	普通救命講習 I と再講習	※ 5
7 6月 13日	3:00	古岩屋荘	1	普通救命講習 I と再講習	※ 3
8 7月 25日	3:00	介護支援サービス しろもと	18	普通救命講習 I と再講習	※ 4
9 7月 26日	3:00	介護支援サービス しろもと	21	普通救命講習 I と再講習	※ 3
10 7月 27日	3:00	有限会社ナイスデイ アットホーム直瀬	18	普通救命講習 I と再講習	※ 2
11 9月 1日	3:00	育和会 久万保育園	18	普通救命講習 I と再講習	※ 3
12 9月 8日	3:00	育和会 久万保育園	15	普通救命講習 I と再講習	※ 2
13 11月 11日	3:00	防災士	3	普通救命講習 I と再講習	※ 2
合 計	39:00	9団体	218		38

※については新規講習と重複

第 30 表 救命入門コース等の講習実施状況

番号	受講日	講習時間	対象団体名	受講者数	講習内容	派遣人員
1	1月 26日	1:00	久万高原警察署	24	心肺蘇生法・AED	2
2	2月 23日	1:00	相ノ峰自治会	11	救急講話・AED	1
3	3月 10日	1:30	道の駅 天空の郷 さんさん	3	心肺蘇生法・AED	1
4	6月 4日	2:00	久万幼稚園・PTA	65	心肺蘇生法・AED	2
5	6月 6日	1:20	美川幼稚園・小学校・PTA・教員	34	心肺蘇生法・AED・水難救出	3
6	6月 15日	1:00	安全運転管理者講習会	35	心肺蘇生法・AED	3
7	6月 15日	1:15	畑野川小学校・PTA・教員	40	心肺蘇生法・AED・水難救出	3
8	6月 17日	1:30	直瀬小学校・PTA・教員	25	心肺蘇生法・AED・水難救出	2
9	6月 18日	1:45	仕七川幼稚園・小学校・PTA・教員	26	心肺蘇生法・AED・水難救出	2
10	6月 20日	2:50	明神小学校・PTA	26	心肺蘇生法・AED・着衣泳	3
11	7月 4日	1:30	おもご高齢者生活支援ハウス	9	心肺蘇生法・異物除去	2
12	7月 7日	1:30	面河小学校・PTA	24	心肺蘇生法・AED	2
13	7月 12日	1:00	父二峰小学校・PTA	23	心肺蘇生法・AED	2
14	8月 22日	1:30	久万高原町立病院	48	心肺蘇生法・AED	2
15	9月 21日	1:30	久万高原町立病院	18	心肺蘇生法・AED	2
16	10月 26日	1:30	久万高原町立病院	19	心肺蘇生法・AED	2
合計		23:40	14団体	430		34

## 10. 応急手当・口頭指導の実施状況

### (1) 応急手当の実施状況

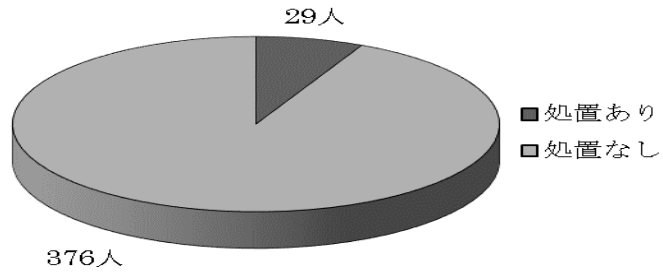
平成 29 年中の搬送人員 561 人のうち、転院搬送及びその他の 156 人を除く 405 人について、救急隊到着以前の応急手当の実施についてみると 29 人(7.2%)が応急手当を受けており、平成 28 年(396 人中 27 人・6.8%)と比較して増加している。

事故種別ごとの応急手当実施率を見ると、交通事故は 1 人(2.5%)と実施率は低い。同じ外傷系の一般負傷は 16 人(19.3%)と前年 16 人(26.2%)と比較し実施率は減少している。救急要請の多い急病については、10 人(3.8%)と低い実施率である。

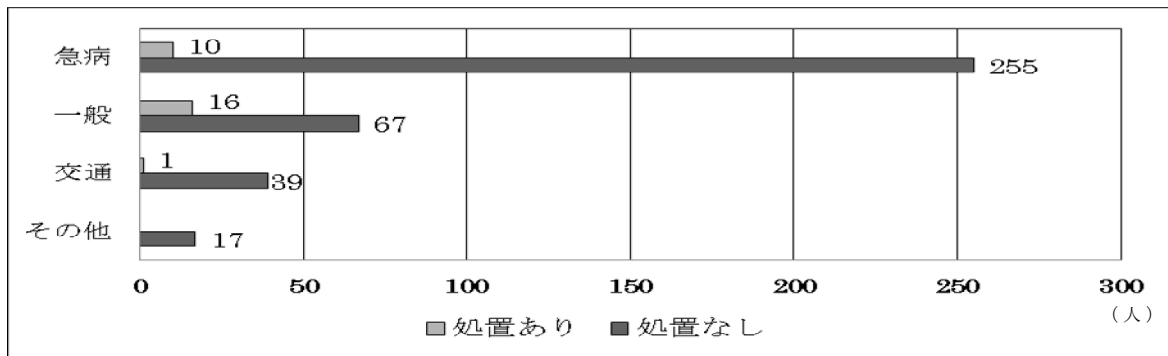
応急手当の内容をみると、止血 11 件、胸骨圧迫 4 件、移動 3 件、保温 3 件、心肺蘇生法 3 件、AED 装着 2 件となっており、応急手当の実施者については家族が 48.3%を占めている。(第 7・8・9・10 図参照)

第6図 応急手当実施状況

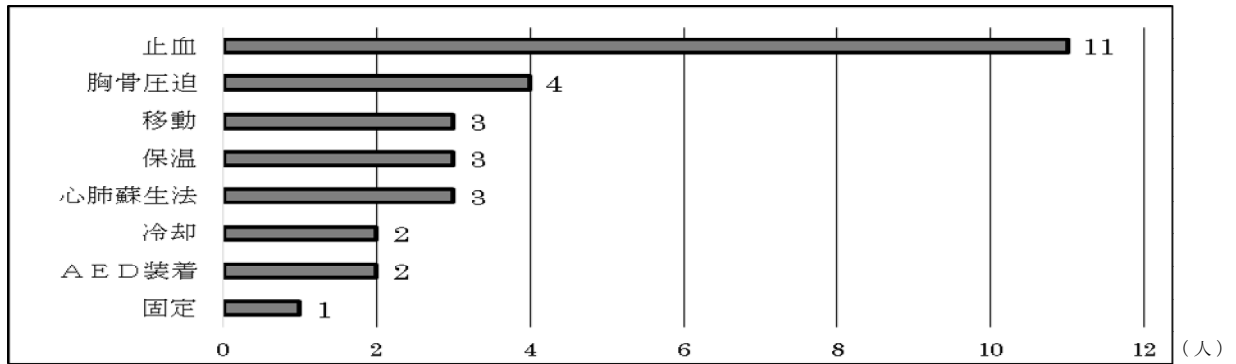
(405人)



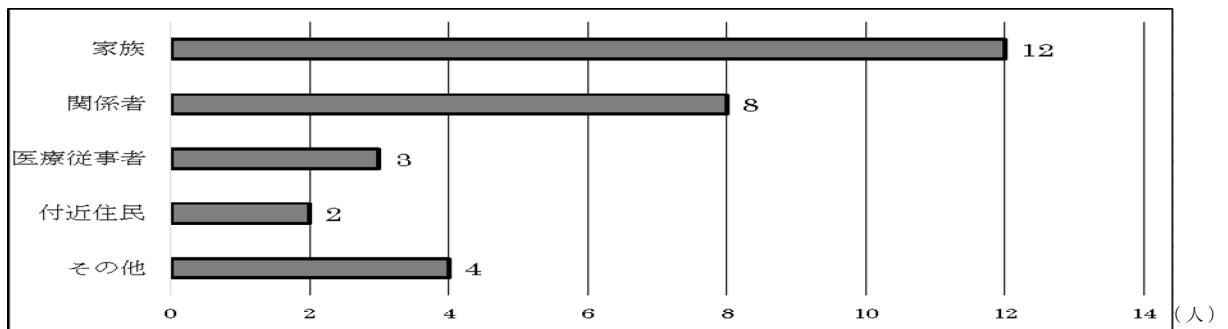
第7図 事故種別実施状況



第8図 応急手当内容



第9図 応急手当実施者



## 2) 口頭指導の状況について

久万高原町消防本部管内の救急現場での応急手当実施率は7.1%であり、口頭指導を行ったが応急手当を実施していなかった件数は2件（無理解、その他）であった。（第31表参照）

第31表 平成29年中の口頭指導状況（全指導回数13回17件）

	口 頭 指 導 の 項 目	指 導 件 数
1	止血・被覆などに関するもの	8件
2	胸骨圧迫・人工呼吸などに関するもの	7件
3	AEDの準備などに関するもの	2件

※指導回数には複数項目の場合が存在するため回数と件数は一致しない

第32表 久万高原町内AED設置箇所状況（総設置箇所62箇所）

久 万 地 区			面 河 地 区		
1	久万高原町役場(本庁)【寄贈】	23	伊予銀行久万支店【私設置】	1	面河体育館
2	久万B&G海洋センター	24	松山市農協久万支所【私設置】	2	面河小学校
3	養護老人ホーム「ささゆり荘」	25	うつのみや内科	3	おもご高齢者生活支援ハウス
4	老人保健施設「あけぼの」	26	高橋歯科医院	4	若山集会所【寄贈】
5	久万高原町産業文化会館	27	わたなべ歯科医院	5	相ノ峰公民館【私設置】
6	久万高原町教育委員会	28	ICランド土居	6	面河診療所
7	久万小学校	29	道の駅「天空の郷さんさん」	7	消防団多機能車両(里成)
8	直瀬小学校	30	防災センター	美 川 地 区	
9	明神小学校	31	久万カントリークラブ	1	久万高原町役場(美川支所)
10	父二峰小学校	32	高原ゴルフクラブ	2	美川小学校
11	畑野川小学校	33	入野福祉館	3	仕七川小学校
12	久万中学校	34	農業公園アグリピア	4	美川中学校
13	上浮穴高校【県設置】	35	大宝寺【私設置】	5	岩屋寺【私設置】
14	久万高原町立病院	36	久保建設【私設置】	6	道の駅みかわ【寄贈】
15	父二峰診療所	37	石丸建設【私設置】	7	仕七川駐在所
16	国民宿舎「古岩屋荘」	38	くま安心館【寄贈】	8	小椋商店(竹谷)
17	久万スキーランド【私設置】	39	グループホーム「サマリア」【寄贈】	柳 谷 地 区	
18	ふるさと旅行村【寄贈】	40	グループホーム「サマリア」【寄贈】	1	久万高原町役場(柳谷支所)
19	畑野川歯科【県歯科医師会設置】	41	久万ボクシングジム【私設置】	2	柳谷小学校
20	久万高原警察署	42	まちなか交流館	3	四国電力面河発電所
21	四国電力久万営業所			4	消防団多機能車両(落出)
22	久万保育園			5	中津公民館



# 救 助 編



危険に立ち向かうオレンジの精鋭

# 救助活動体制の現状

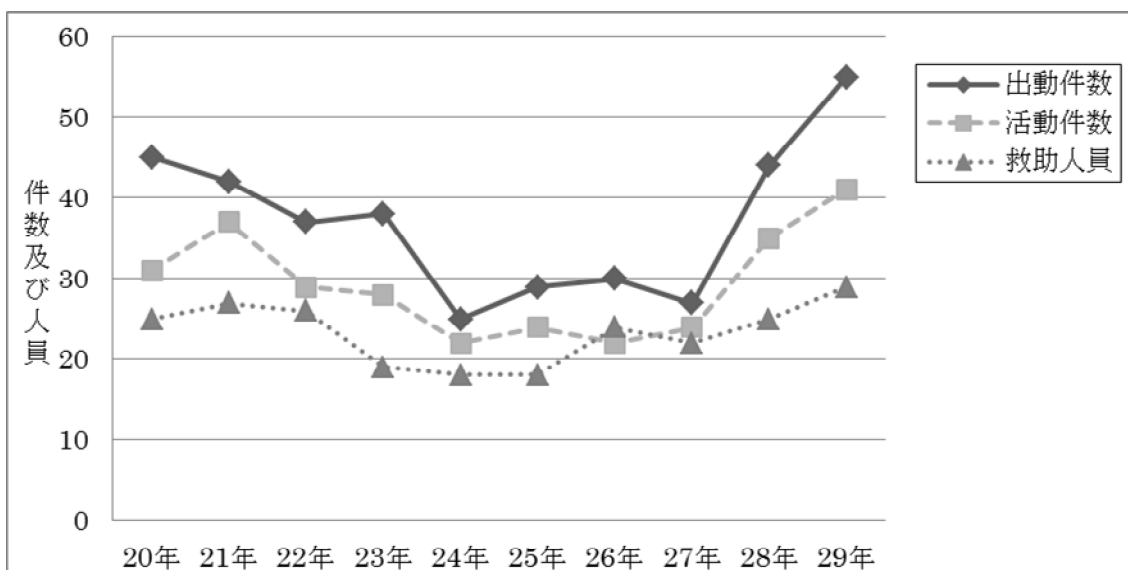
## (1) 救助活動状況の推移

平成29年中における出動件数は55件、このうち活動件数は41件、救助人員は29人で、前年に比べて出動件数は11件の増加、救助人員も4人の増加となっている。

第1表 過去10年間の救助活動状況の推移

区分 年 別	救助出動件数		救助活動件数		救助人員	
	件数	増減率(%)	件数	増減率(%)	人員	増減率(%)
20年	45	—	31	—	25	—
21年	42	△ 6.7	37	19.4	27	8.0
22年	37	△ 11.9	29	△ 21.6	26	△ 3.7
23年	38	2.7	28	3.5	19	△ 3.7
24年	25	△ 34.2	22	△ 21.4	18	△ 5.3
25年	29	16.0	24	9.0	18	—
26年	30	3.4	22	△ 8.3	24	33.3
27年	27	△ 10.0	24	9.1	22	△ 8.3
28年	44	63.0	35	45.8	25	13.6
29年	55	25.0	41	17.1	29	16

第1図 救助出動状況と救助人員



## (2) 事故種別活動状況

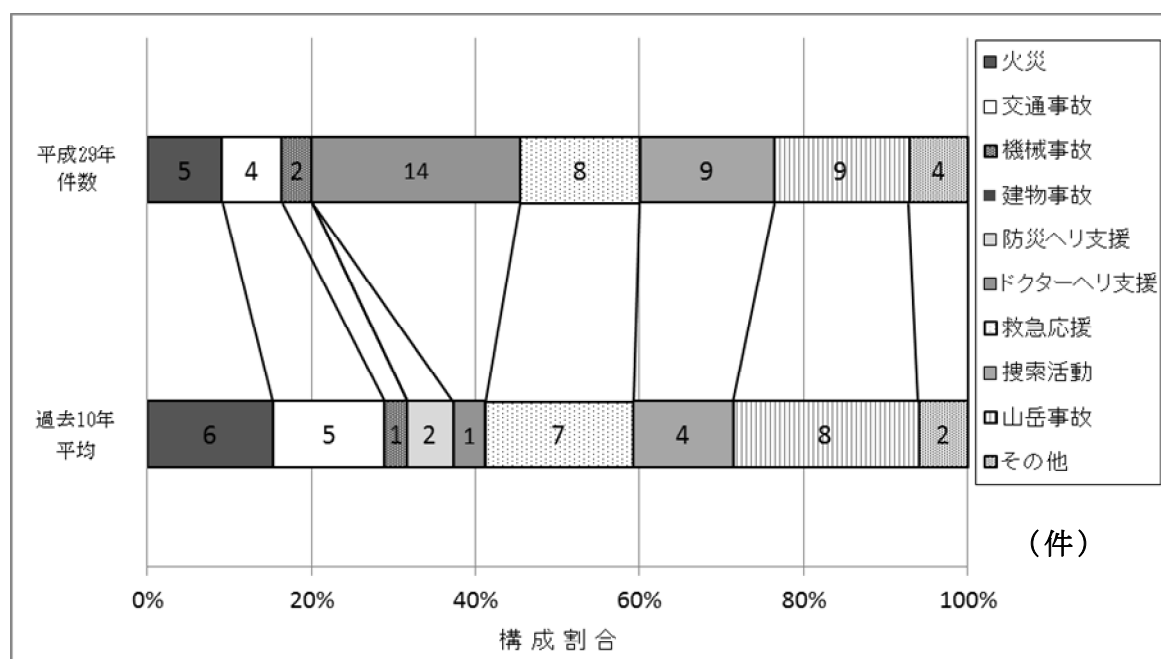
事故種別出動件数は、ドクターヘリ支援活動が14件（25.5%）、次いで捜索活動及び山岳事故が9件（16.4%）となっており、全体の約58%を占めている。ドクターヘリ支援については、平成29年2月から愛媛県ドクターヘリの運航開始に伴い、地上隊による支援活動が急増した。また、捜索活動が過去10年平均の2倍となっているが、これについては認知症等の高齢者の不明者捜索事案が続いたことによるものとなっている。

第2表 事故種別状況

事故種別 件数 及び人員		火災	交通事故	機械事故	建物事故	防災ヘリ支援	ドクターヘリ支援	救急応援	捜索活動	山岳事故	その他	合計
		件数	5	4	2	—	—	14	8	9	9	4
構成比(%)	9.1%	7.3%	3.5%	—	—	25.5%	14.5%	16.4%	16.4%	7.3%	100%	
活動	件数	5	2	1	—	—	10	5	8	6	4	41
構成比(%)	12.2%	4.9%	2.4%	—	—	24.4%	12.2%	19.5%	14.6%	9.8%	100%	
人員	人員数	—	2	1	—	—	10	5	2	5	4	29
構成比(%)	—	6.9%	3.4%	—	—	34.5%	17.2%	6.9%	17.2%	13.9%	100%	
過去の 出動	過去10年合計	55	49	10	1	20	14	65	44	81	22	361
	過去10年平均	6	5	1	—	2	1	7	4	8	2	36

(注)火災による出動・活動件数は、建物火災のみ計上。

第2図 事故種別救助活動割合及び過去10年平均との比較



### (3) 救助出動人員及び活動人員の状況

出動人員及び活動人員数は火災が最も多く、次いでドクターヘリ支援活動となっている。また活動の内訳としては、消防隊の出動及び活動件数が最も多くなっている。

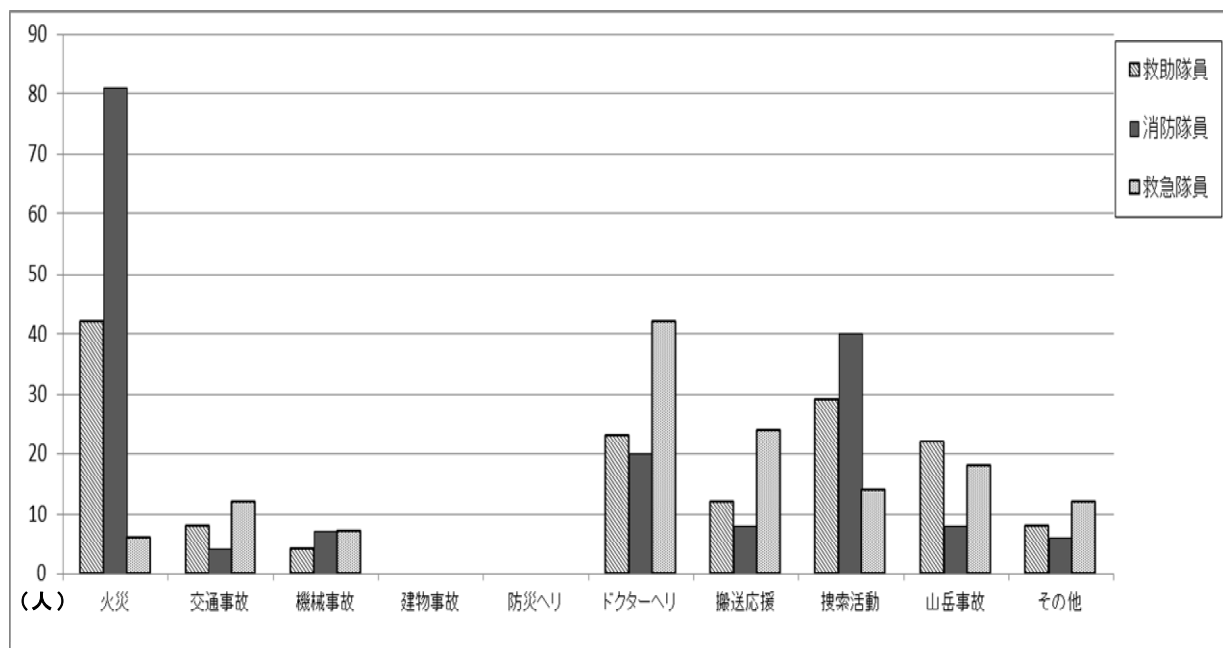
第3表 事故種別出動人員の状況

災害種別 件数及び人員		火災	交通事故	機械事故	建物事故	支防 災ヘリ 援	ヘドク リク 支タ 援	搬送 応 援	捜索 活 動	山岳 事 故	そ の 他	合 計
救助隊員	出動	42	8	4	—	—	23	12	29	22	8	148
	活動	42	2	3	—	—	17	6	25	15	8	118
消防隊員	出動	81	4	7	—	—	20	8	40	8	6	174
	活動	81	1	5	—	—	14	4	39	7	6	157
救急隊員	出動	6	12	7	—	—	42	24	14	18	12	135
	活動	6	3	4	—	—	30	15	14	12	12	96
合 計	出動	129	24	18	—	—	85	44	83	48	26	457
	活動	129	6	12	—	—	61	25	78	34	26	371

(注) ア. 各欄の上段は出動人員、下段は活動人員を示す。「出動人員」とは、救助活動を行うため出動したすべての人員をいう。

イ. 火災の従事人員は、現場に出動した救急・救助、消防吏員の数を計上。

第3図 事故種別出動人員比率



第 4 表 平成 29 年の主な救助活動

番号	種別	発生日	発生場所	事故概要及び活動概要	出動人員
					救助人員
1	搬送 応援	2 月	久万高原町 (岩屋寺参道)	岩屋寺参道において、 発生した救急事案。 長距離搬送が見込まれる ため、救急応援出動。	5 人
					1 人
2	山岳 事故	4 月	石鎚山系 (三ノ鎖元付近)	登山者の滑落事案。 地上救助隊と防災ヘリ による連携活動を実施。	6 人
					1 人
3	機械 事故	5 月	西予市 野村町 大野ヶ原 (市町境付近)	運搬用機械に挟まれた 事案。 西予市消防本部との連 携活動を実施。	6 人
					1 人
4	捜索 活動	6 月	久万高原町 (皿ヶ峰)	不明者の捜索事案。 警察・消防団・防災ヘリ との連携活動を実施。	18 人
					0 人
5	捜索 活動	8 月	久万高原町 面河地区	不明者の捜索事案。 警察・消防団との連携 活動を 2 日間に亘り実施。	24 人
					0 人
6	山岳 事故	10 月	石鎚山系 面河道ルート	登山者の滑落事案。 地上救助隊と防災ヘリ による連携活動を実施。	13 人
					1 人
7	捜索 活動	11 月	久万高原町 美川地区	不明者の捜索事案。 警察・消防団との連携活 動を 2 日間に亘り実施。	18 人
					1 人

※55 件中の 7 件を抜粋。

※出動人員については消防本部・署の出動人員（消防隊・救急隊含む）のみ計上。

# 予 防 編

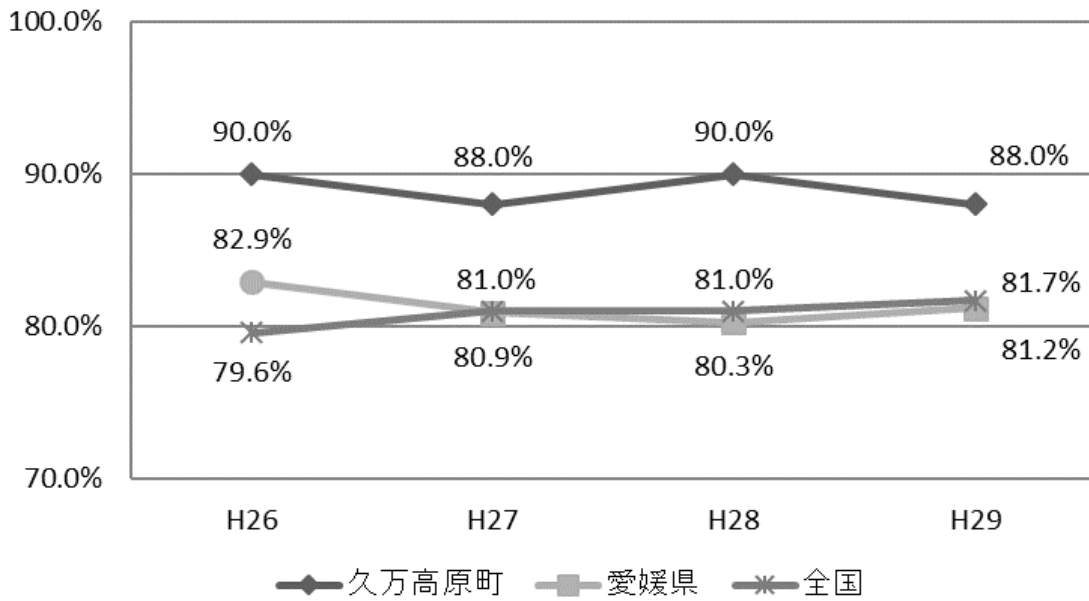


火災予防 私たちにできること！

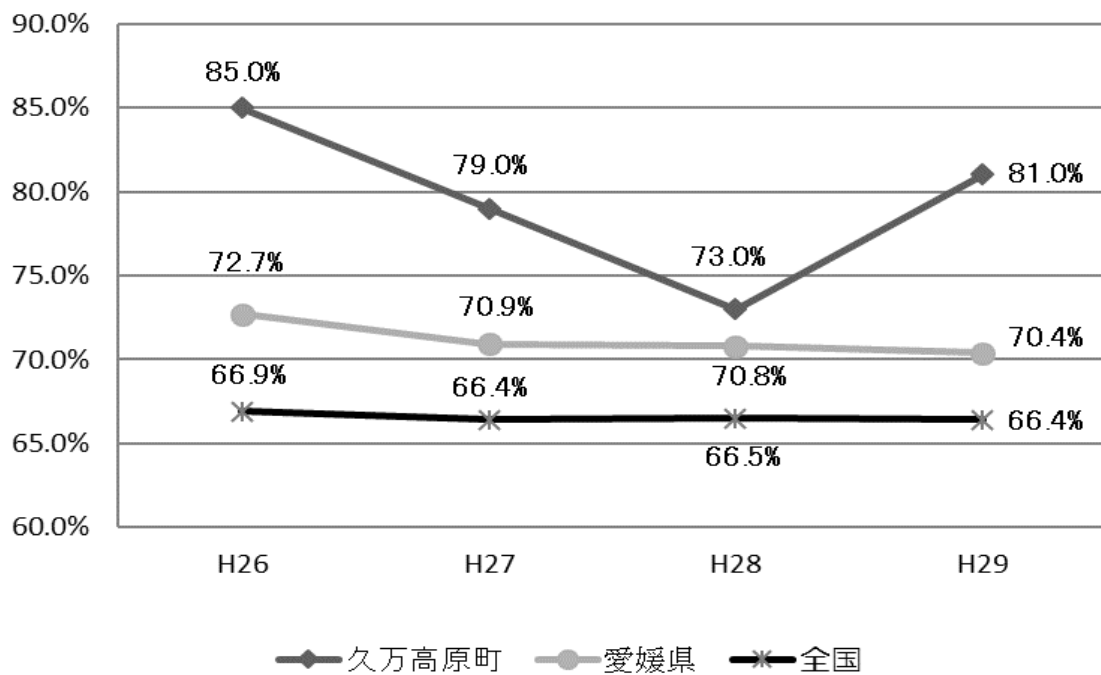
# 予防行政の現状

## 1. 住宅防火対策

第1図 住宅用火災警報器設置率の推移



第2図 条例適合率の推移



※ 第1図・第2図は標本調査のため、各数値は一定の誤差を含む。

## 2. 防火対象物

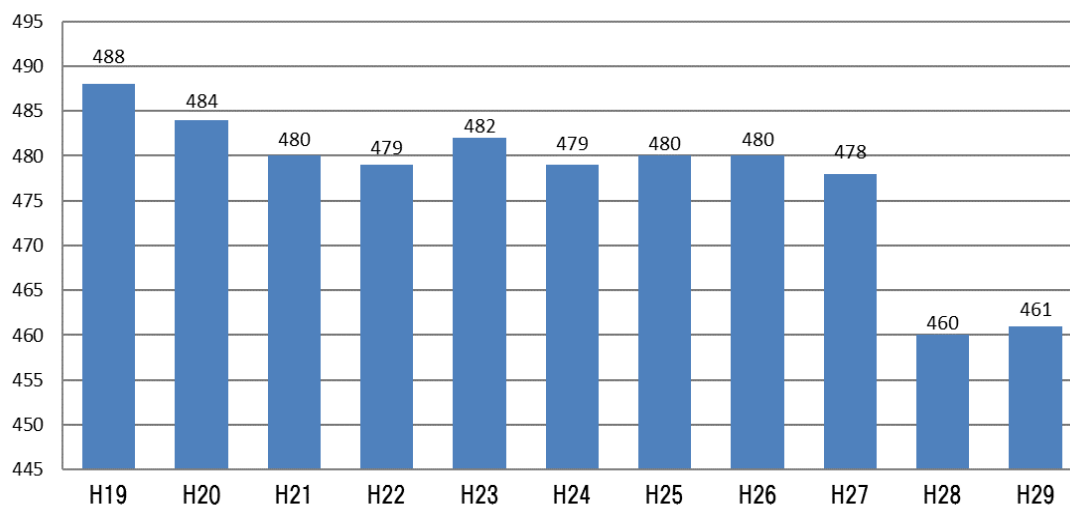
第1表 用途・地区別防火対象物数

			久万地区			面河地区			美川地区			柳谷地区			合計		
			H28	H29	増減	H28	H29	増減	H28	H29	増減	H28	H29	増減	H28	H29	増減
1	イ	劇場・映画館・演芸場等	1	1	-			-			-			-	1	1	-
	ロ	公会堂・集会場	19	19	-	5	6	1	10	10	-	6	6	-	40	41	1
2	イ	キャバレー・カフェ等			-			-			-			-	-	-	-
	ロ	遊技場・ダンスホール	1	1	-			-			-			-	1	1	-
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗等			-			-			-			-	-	-	-
	ニ	カラオケボックス等			-			-			-			-	-	-	-
3	イ	待合・料亭の類			-			-			-			-	-	-	-
	ロ	飲食店	4	4	-			-			-			-	4	4	-
4		百貨店・マーケット・その他店舗 展示場	10	10	-	1	1	-			-			-	11	11	-
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所等	12	12	-	5	5	-	2	2	-	1	1	-	20	20	-
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	24	24	-	3	3	-	7	7	-	7	6	▲1	41	40	▲1
6	イ	病院・診療所又は助産所	5	5	-			-	1	1	-			-	6	6	-
	ロ	老人短期入所施設・養護老人ホーム等	9	9	-			-			-			-	9	9	-
	ハ	老人デイサービス施設等	6	6	-	1	1	-	1	1	-	1	1	-	9	9	-
	ニ	幼稚園・特別支援学校	4	4	-			-	2	2	-			-	6	6	-
7		小中高等学校・各種学校	22	22	-			-	9	9	-	2	2	-	33	33	-
8		図書館・博物館・美術館	6	6	-	1	1	-			-			-	7	7	-
9	イ	蒸気浴場等			-			-			-			-	-	-	-
	ロ	公衆浴場	1	1	-			-			-			-	1	1	-
10		車両停車場			-			-			-			-	-	-	-
11		神社・寺院・教会	6	6	-			-	1	1	-			-	7	7	-
12	イ	工場・作業場	33	33	-	2	2	-	8	8	-	2	2	-	45	45	-
	ロ	映画スタジオ等			-			-			-			-	-	-	-
13	イ	自動車車庫・駐車場	3	3	-			-	1	1	-			-	4	4	-
	ロ	飛行場の格納庫			-			-			-			-	-	-	-
14		倉庫	33	33	-	3	3	-	1	1	-	2	2	-	39	39	-
15		前各項に該当しない事業場	81	83	2	2	2	-	9	9	-	19	19	-	111	113	2
16	イ	特定の複合用途対象物	32	32	-	4	4	-	8	8	-	3	3	-	47	47	-
	ロ	その他複合用途対象物	10	9	▲1	1	1	-	2	2	-			-	13	12	▲1
17		重要文化財・重要美術品	2	2	-			-	3	3	-			-	5	5	-
18		アーケード			-			-			-			-	-	-	-
19		市町村長の指定する山林			-			-			-			-	-	-	-
合 計			324	325	1	28	29	1	65	65	-	43	42	▲1	460	461	1

※消防法施行令別表第一に掲げる防火対象物のうち(1)項から(16)の(3)項までに掲げる防火対象物で延べ面積が150㎡以上のもの及び(17)項から(19)項に掲げる防火対象物が対象

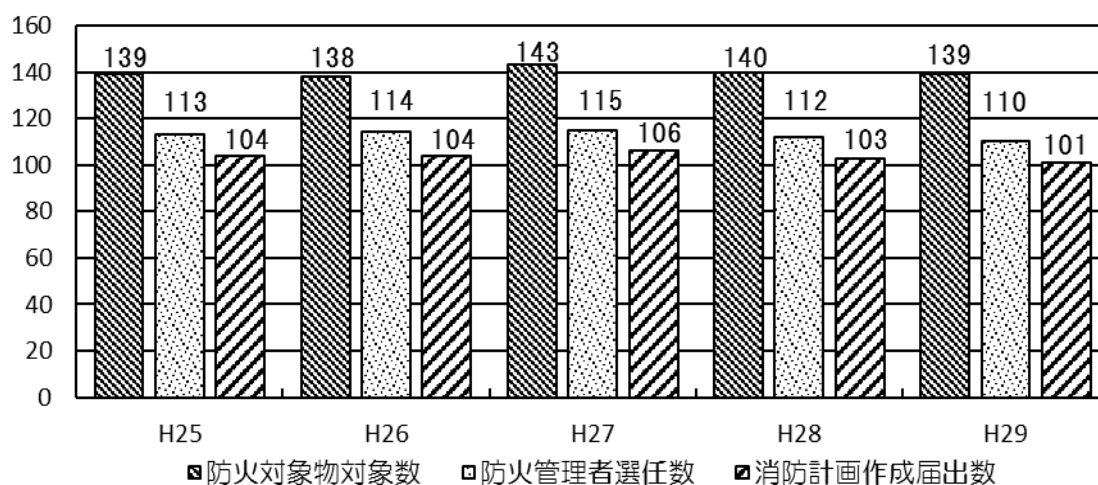


第3図 防火対象物の推移

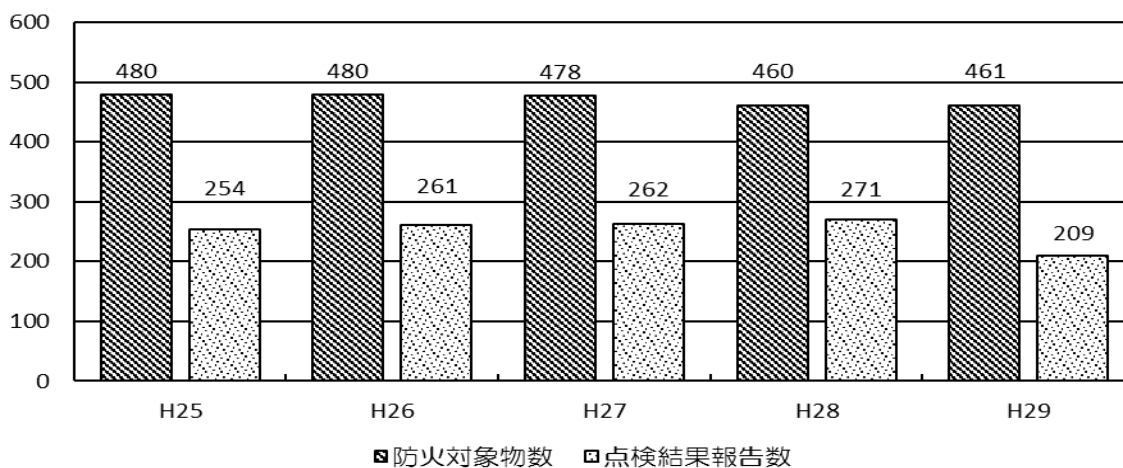


### 3. 防火管理実施

第4図 防火管理者選任・消防計画作成届出状況



第5図 消防用設備点検結果報告状況



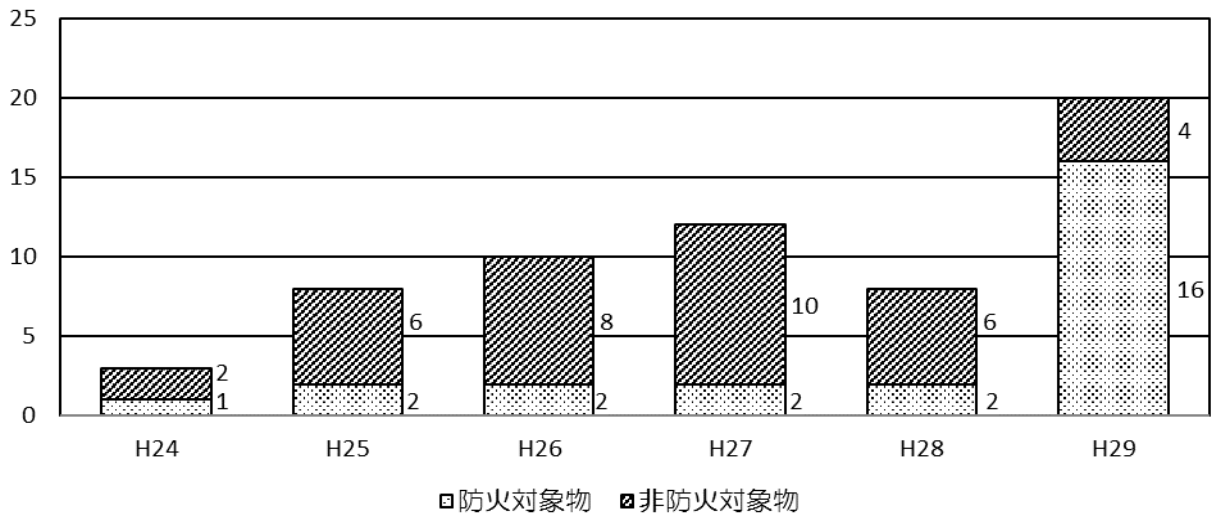
#### 4. 立入検査実施

第2表 立入検査結果

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
対象物数	479	480	480	478	460	461
立入検査数	176	175	152	207	139	172
実施率	36.7%	36.5%	31.7%	43.3%	30.2%	37.3%

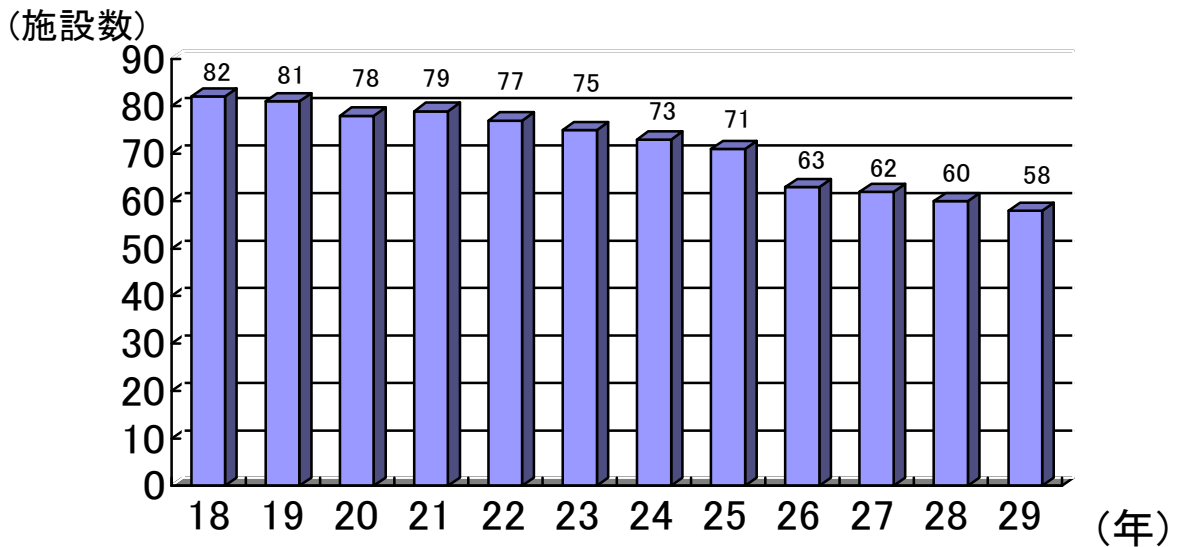
#### 5. 消防同意

第6図 消防同意処理状況



#### 6. 危険物

第7図 危険物施設数の推移



第3表 許可区分別・地区別危険物施設数 (平成29年12月末現在)

地区別		久万地区	面河地区	美川地区	柳谷地区	合計
貯蔵所	屋内	3		1		4
	屋外タンク	3		1		4
	屋内タンク	1				1
	地下タンク	8 (▲1)			1	9 (▲1)
	簡易タンク	2				2
	移動タンク	8		1		9
	屋外			4		4
取扱所	給油	12	1	5	1 (▲1)	19 (▲1)
	(自家用)	(4)	(1)	(1)	(0)	(6)
	一般	5		1		6
合計		42 (▲1)	1	13	2 (▲1)	58 (▲2)

( ) 内は前年比

# 高齢者の防火対策

第1表 久万高原町における高齢化率の推移

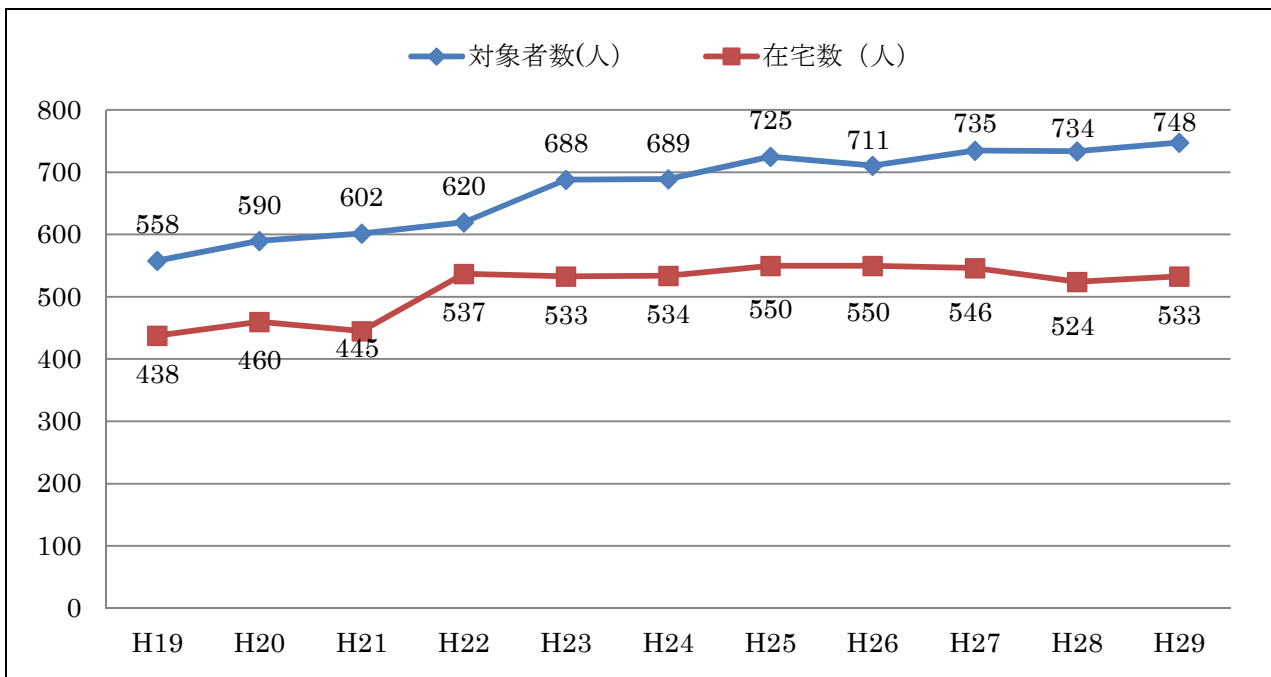
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
久万高原町 総人口(人)	10,157	9,938	9,748	9,440	9,177	8,944	8,671
久万高原町 高齢者数(人)	4,371	4,307	4,262	4,207	4,179	4,123	4,046
久万高原町 高齢化率(%)	43.03	43.34	43.72	44.57	45.54	46.10	46.66
愛媛県 総人口(人)	1,457,280	1,447,287	1,438,612	1,428,946	1,420,283	1,410,463	1,399,453
愛媛県 高齢者数(人)	379,794	385,799	397,589	409,546	419,554	428,008	434,035
愛媛県 高齢化率(%)	26.06	26.66	27.64	28.66	29.54	30.35	31.01

※高齢者の年齢は65歳以上

## 防災診断

### 1. ひとり暮らしのお年寄り宅防災診断

第1図 対象者数及び在宅数の推移



※対象者は65歳以上のひとり暮らしのお年寄り

第2表 地区別訪問状況及び建物の状況

久万地区	対象者区分(人)			在宅数・在宅率(%)			建築構造		建築年(S56)	
	男性	女性	合計	在宅	不在	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
平成29年	121	267	388	266	108	68.6	257	9	212	48
平成28年	99	266	365	263	81	72.1	251	1	215	42
平成27年	97	267	364	269	78	73.9	257	3	221	39
平成26年	86	261	347	267	76	76.9	261	6	231	34
平成25年	85	289	374	271	91	72.5	266	5	235	35

面河地区	対象者区分(人)			在宅数・在宅率(%)			建築構造		建築年(S56)	
	男性	女性	合計	在宅	不在	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
平成29年	17	52	69	45	21	65.2	45	—	43	2
平成28年	19	52	71	48	20	67.6	47	1	42	5
平成27年	18	55	73	52	19	71.2	50	—	46	4
平成26年	19	53	72	52	19	72.2	52	—	48	3
平成25年	20	52	72	49	21	68.1	49	—	45	3

美川地区	対象者区分(人)			在宅数・在宅率(%)			建築構造		建築年(S56)	
	男性	女性	合計	在宅	不在	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
平成29年	64	127	191	145	42	75.9	141	4	127	17
平成28年	63	125	188	129	38	68.6	124	5	116	13
平成27年	61	127	188	146	36	77.7	142	4	128	18
平成26年	54	125	179	146	30	81.6	142	4	134	12
平成25年	55	135	190	142	37	74.7	139	3	124	18

柳谷地区	対象者区分(人)			在宅数・在宅率(%)			建築構造		建築年(S56)	
	男性	女性	合計	在宅	不在	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
平成29年	28	72	100	77	23	77.0	75	2	71	6
平成28年	26	84	110	84	17	76.3	82	2	74	10
平成27年	24	86	110	79	27	71.8	76	3	71	8
平成26年	22	91	113	85	27	75.2	80	5	77	8
平成25年	22	90	112	88	20	78.6	86	2	80	8

※各地区の在宅数・在宅率の拒否、対象外数は除く

※各地区の建築構造・建築年不明数は除く

第3表 非常時の通報手段及び消火器

	通 報 手 段					消火器設置状況	
	固定電話	携帯電話	FAX	緊急通報システム	なし	設置あり（設置率）	不備あり（割合）
久万地区	247	142	13	16	3	172（64.7%）	86（50.0%）
面河地区	42	27	3	2	1	30（66.7%）	17（56.7%）
美川地区	143	76	5	8	—	101（69.7%）	62（61.4%）
柳谷地区	73	38	6	1	—	60（77.9%）	28（46.7%）
久万高原町	505	283	27	27	4	363（68.1%）	193（53.2%）

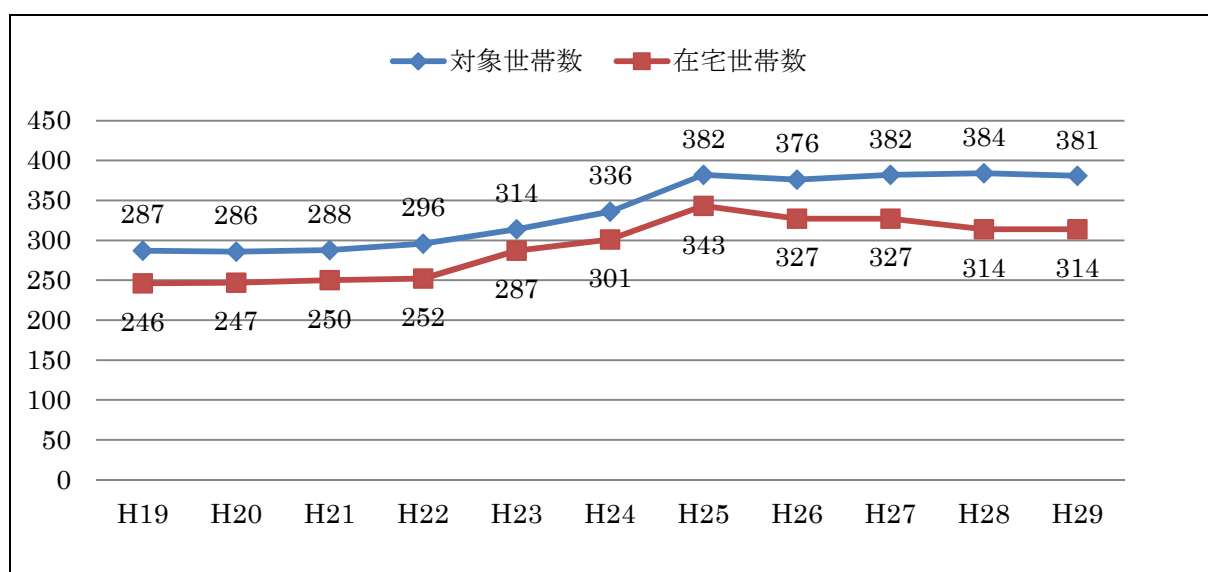
第4表 風呂かまど

	かまど種類		燃料種類			焚口位置		不備件数
	純かまど	タル型	薪	灯油	兼用	屋内	屋外	
久万地区	24	48	32	11	29	15	57	7
面河地区	7	13	7	1	12	7	13	1
美川地区	57	30	62	7	18	14	72	10
柳谷地区	26	15	30	—	11	15	26	1
久万高原町	114	106	131	19	70	51	168	19

※

## 2. 後期高齢者夫婦世帯等防災診断

第2図 対象数及び在宅数の推移



※対象は75歳以上の夫婦世帯

第5表 地区別訪問状況及び建物状況

久万地区	対象世帯数	在宅数・在宅率 (%)			建築構造		建築年 (S56)	
	久万地区	在宅	不在	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
平成29年	183	151	30	82.5	150	1	127	24
平成28年	185	150	31	81.1	150	—	128	22
平成27年	195	171	21	87.7	170	1	140	31

面河地区	対象世帯数	在宅数・在宅率 (%)			建築構造		建築年 (S56)	
	面河地区	在宅	不在	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
平成29年	37	28	8	75.7	28	—	26	2
平成28年	37	31	6	83.8	31	—	30	1
平成27年	34	32	1	94.1	32	—	31	1

美川地区	対象世帯数	在宅数・在宅率 (%)			建築構造		建築年 (S56)	
	美川地区	在宅	不在	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
平成29年	105	87	15	82.9	85	2	77	10
平成28年	104	90	11	86.5	88	2	75	15
平成27年	102	83	17	81.4	82	1	73	10

柳谷地区	対象世帯数	在宅数・在宅率 (%)			建築構造		建築年 (S56)	
	柳谷地区	在宅	不在	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
平成29年	56	48	8	85.7	47	1	44	4
平成28年	58	43	14	74.1	42	1	39	4
平成27年	51	41	8	80.4	40	1	38	3

※各地区の在宅数・在宅率の拒否、対象外数は除く

※各地区の建築構造・建築年不明数は除く

第6表 非常時の通報手段及び消火器

	通 報 手 段					消火器設置状況	
	固定電話	携帯電話	FAX	緊急通報システム	なし	設置あり (設置率)	不備あり (割合)
久万地区	149	102	14	5	—	116 (76.8%)	62 (53.4%)
面河地区	28	20	2	0	—	20 (71.4%)	15 (75.0%)
美川地区	86	57	3	2	—	65 (74.7%)	40 (61.5%)
柳谷地区	48	34	4	0	—	39 (81.3%)	27 (69.2%)
久万高原町	311	213	23	7	—	240 (76.4%)	144 (60.0%)

第7表 風呂かまど

	かまど種類		燃料種類			焚口位置		不備 件数
	純かまど	タル型	薪	灯油	兼用	屋内	屋外	
久万地区	26	33	29	4	26	13	46	4
面河地区	7	5	9	—	3	3	9	2
美川地区	32	23	38	3	14	12	43	5
柳谷地区	22	12	26	—	8	10	24	3
久万高原町	87	73	102	7	51	38	122	14



# 消防現況 平成 29 年版

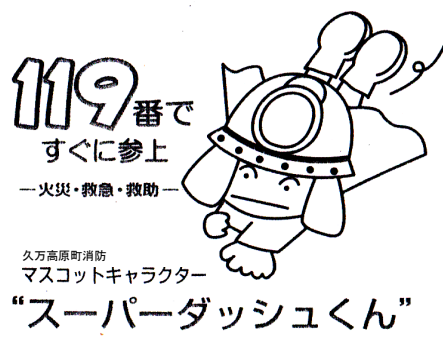
発行日 平成 30 年 3 月 1 日

発行 久万高原町消防本部

〒791-1207

愛媛県上浮穴郡久万高原町下野尻甲 33 番地

TEL (0892) 21-2411 FAX (0892) 21-2656



119番で  
すぐに参上

—火災・救急・救助—

久万高原町消防  
マスコットキャラクター

“スーパーダッシュくん”